

2023年02月28日



留学生の現状調査 結果報告 2023年

調査期間： 2022年12月15日 ～ 2023年1月15日



目次

• 概要	3
➤ 調査概要	4
➤ 資料の構成	5
➤ 留学生の現状調査 2023年 – 概要	6
➤ 用語定義	7
• パート 1	8
➤ 回答者の基本属性	9
➤ 回答者の回答（実績のみ）	18
• パート 2	24
➤ 留学生の満足度	25
➤ 留学した後の日本での滞在促進	65
➤ 留学生の誘致に向けて留学先を選ぶ際に重視すること	102
• 付属：分析担当について（ヒルズ ジェームス）	117
• 付属：アンケート質問	119



概要

具体的なデータを基に、留学生の満足度向上を目指す

コロナ禍のため一時大阪在住の留学生数も2万人程度に減りましたが、昨年3月以降入国し、現状はコロナ前を上回る留学生数となっています。

2020年4月に立ち上げた我々「留学支援コンソーシアム大阪」では、アジアNO.1の留学生都市を目指し、オール大阪で留学生の支援を行うこととし、今年度は600人以上が参加する2回目の外国人留学生エキスポを実施しました。また、多くのイベントを留学生ウィークとしてブランディングしました。それらのイベントでは高い満足度を得ています。また、留学生アンバサダー組織OGSANは50か国以上800人近くが登録し、彼らから生の声を聞くこともできています。

3回目となる今回のアンケートは満足度の分析に焦点を当てた内容でした。我々「留学支援コンソーシアム大阪」は、留学生にとって住んでよし・学んでよし・働いてよしの大阪を目指していますが、そのためには留学生の高い満足度が必要です。満足度が高くなれば、海外からの留学生の誘致につながります。また、充実した留学生生活にもつながります。そして日本への就職の後押しにもなります。その満足度を高くするにはどうすればよいのかを調べるのが今回のアンケートの主な目的です。

今回のアンケートを実施に際しては、大学コンソーシアム大阪、南大阪地域大学コンソーシアム、大阪府専修学校各種学校連合会（大専各）、そして各学校から大きなご協力いただきました。この場をお借りして深謝いたします。

パート1

概要

- アンケートの概要について
- アンケートの回答者について

パート2

調査内容と見えてきた課題

1. 留学生の満足度向上に向けて

Q. どうすれば留学生により満足してもらえるでしょうか。

2. 留学した後の日本での滞在促進

Q. どうすれば留学生に卒業した後も日本により長く滞在してもらえるでしょうか。

3. 留学生の誘致に向けて

Q. どうすれば大阪の留学先としての魅力を発信すれば良いでしょうか。

留学生の現状調査 2023年 – 概要

具体的なデータを基に、留学生の満足度向上を目指す

実施回数：	3回目 実績：留学生の現状調査2021年、留学生の現状調査2022年
有効回答数：	1123件（約30%は来日1年未満） ※過去最高回答数
主な調査目的：	1. 留学生の満足度に影響を及ぼす項目を特定すること。 2. 卒業後も留学生が日本に残りたいことに影響を及ぼす項目を特定すること。 3. 留学先を選ぶ際に重んじる項目をグループにまとめ、ペルソナを特定すること。 ↓ 「具体的な留学生の支援策・誘致策の提案」
調査内容：	<ul style="list-style-type: none">属性情報（性別、年齢、出身地域、日本語能力、通っている学校の種類）大阪に住んでよかった理由悩み事留学先を選ぶ際に重視していること卒業後の計画日本での留学経験
分析方法：	<ul style="list-style-type: none">ロジスティック回帰分析（P27～28を参照） 上記主な調査目的1 & 2 に利用）因子分析（P104～109を参照） （上記主な調査目的3）クラスター分析（P110～115を参照） （上記主な調査目的3）

用語定義

用語	解説
OGSA :	公益財団 大阪観光局が事務局を務めている留学生支援コンソーシアム大阪のこと（略称：Osaka Global Student Support Association）。
OGSAN:	留学生支援コンソーシアム大阪が作った留学生のアンバサダーネットワークのこと（略称：Osaka Global Student Ambassador Network）。
留学生:	調査時点で日本に在留している外国人学生（留学生ビザ保持者）。オンラインで授業等に参加している学生は含まれない。
統計学的に有意な差:	有意水準（ α ）を0.05（5%）とする。

パート 1

調査概要・回答者について

回答者の基本属性

独自で分析できる地域※

地位	出身国・地域	回答者数
1	ベトナム	284
2	中国	258
3	ネパール	118
4	インドネシア	77
5	台湾	70
6	スリランカ	43
7	韓国	37
8	ミャンマー	34
9	香港	28
10	マレーシア	19
11	フランス	13
12	インド	12
13	アメリカ	11
14	タイ	11
15	バングラデシュ	9
16	フィリピン	9
17	ドイツ	7
18	未知	7
19	ウズベキスタン	5
20	カンボジア	5
21	トルコ	5
22	モンゴル	5
23	ロシア	5
25	イラン	4
26	コロンビア	4

地位	出身国・地域	回答者数
27	イタリア	3
28	カナダ	3
29	スペイン	3
30	パキスタン	3
31	マカオ	3
32	エチオピア	2
33	ガーナ	2
34	キルギス	2
35	タジキスタン	2
36	メキシコ	2
37	リトアニア	2
38	アルジェリア	1
39	イギリス	1
40	イスラエル	1
41	ウクライナ	1
42	エジプト	1
43	チュニジア	1
44	ティモール	1
45	ナイジェリア	1
46	ノルウェー	1
47	ブータン	1
48	ブルネイ	1
49	ボリビア	1
50	ポルトガル	1
51	マラウイ	1

地位	出身国・地域	回答者数
52	ラオス	1
53	ラトビア	1

回答者は**52以上**の
出身国・地域から来ている

※回答者が100人以上の地域を独自で分析できる地域とする。
それ以外のものをグループにまとめる（次ページ参照）。

国籍 — グループ

地位	出身国・地域	回答者数
1	ベトナム	284
2	中国	258
3	ネパール	118
4	インドネシア	77
5	台湾	70
6	スリランカ	43
7	韓国	37
8	ミャンマー	34
9	香港	28
10	マレーシア	19
11	フランス	13
12	インド	12
13	アメリカ	11
14	タイ	11
15	バングラデシュ	9
16	フィリピン	9
17	ドイツ	7
18	未知	7
19	ウズベキスタン	5
20	カンボジア	5
21	トルコ	5
22	モンゴル	5
23	ロシア	5
25	イラン	4
26	コロンビア	4

地位	出身国・地域	回答者数
27	イタリア	3
28	カナダ	3
29	スペイン	3
30	パキスタン	3
31	マカオ	3
32	エチオピア	2
33	ガーナ	2
34	キルギス	2
35	タジキスタン	2
36	メキシコ	2
37	リトアニア	2
38	アルジェリア	1
39	イギリス	1
40	イスラエル	1
41	ウクライナ	1
42	エジプト	1
43	チュニジア	1
44	ティモール	1
45	ナイジェリア	1
46	ノルウェー	1
47	ブータン	1
48	ブルネイ	1
49	ボリビア	1
50	ポルトガル	1
51	マラウイ	1

地位	出身国・地域	回答者数
52	ラオス	1
53	ラトビア	1

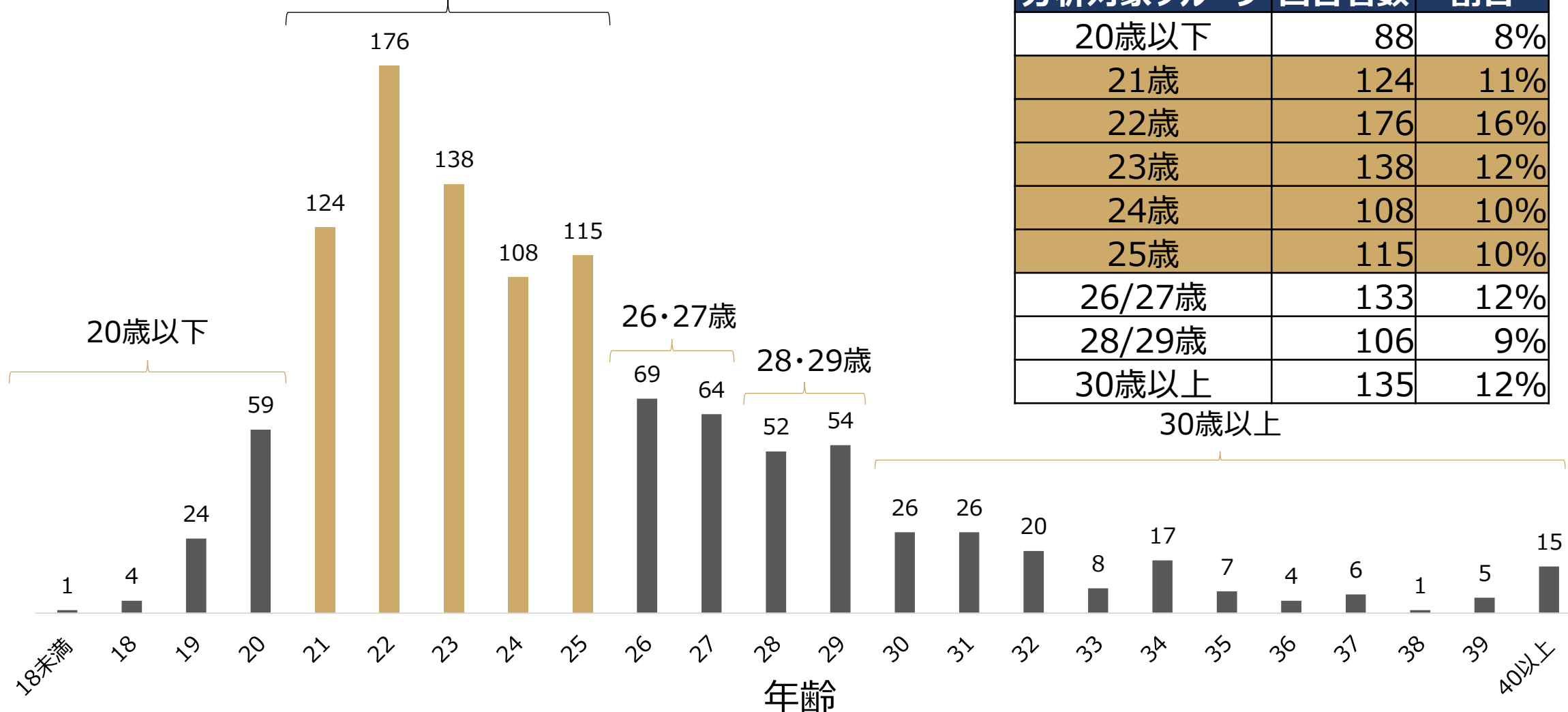
回答者を下記9つの出身地域に分けている

分析対象グループ	回答者数
ベトナム	284
中国	258
その他東南アジア	159
その他東アジア	143
ネパール	118
その他南・中央・西アジア	86
欧米豪	59
アフリカ	9
未知	7

Q. 年齢を教えてください

回答者を下記**9つ**の年齢グループに分けている

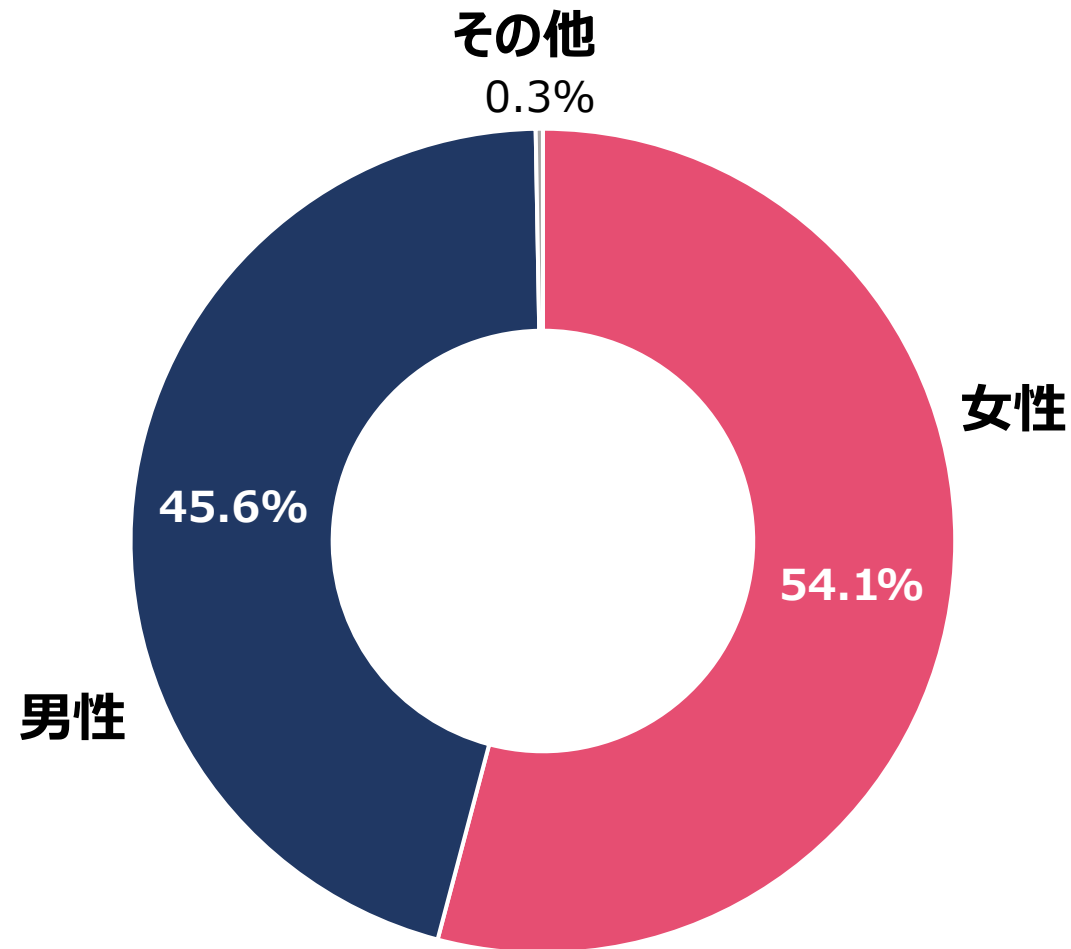
独自で分析する



分析対象グループ	回答者数	割合
20歳以下	88	8%
21歳	124	11%
22歳	176	16%
23歳	138	12%
24歳	108	10%
25歳	115	10%
26/27歳	133	12%
28/29歳	106	9%
30歳以上	135	12%

Q. 性別は何ですか

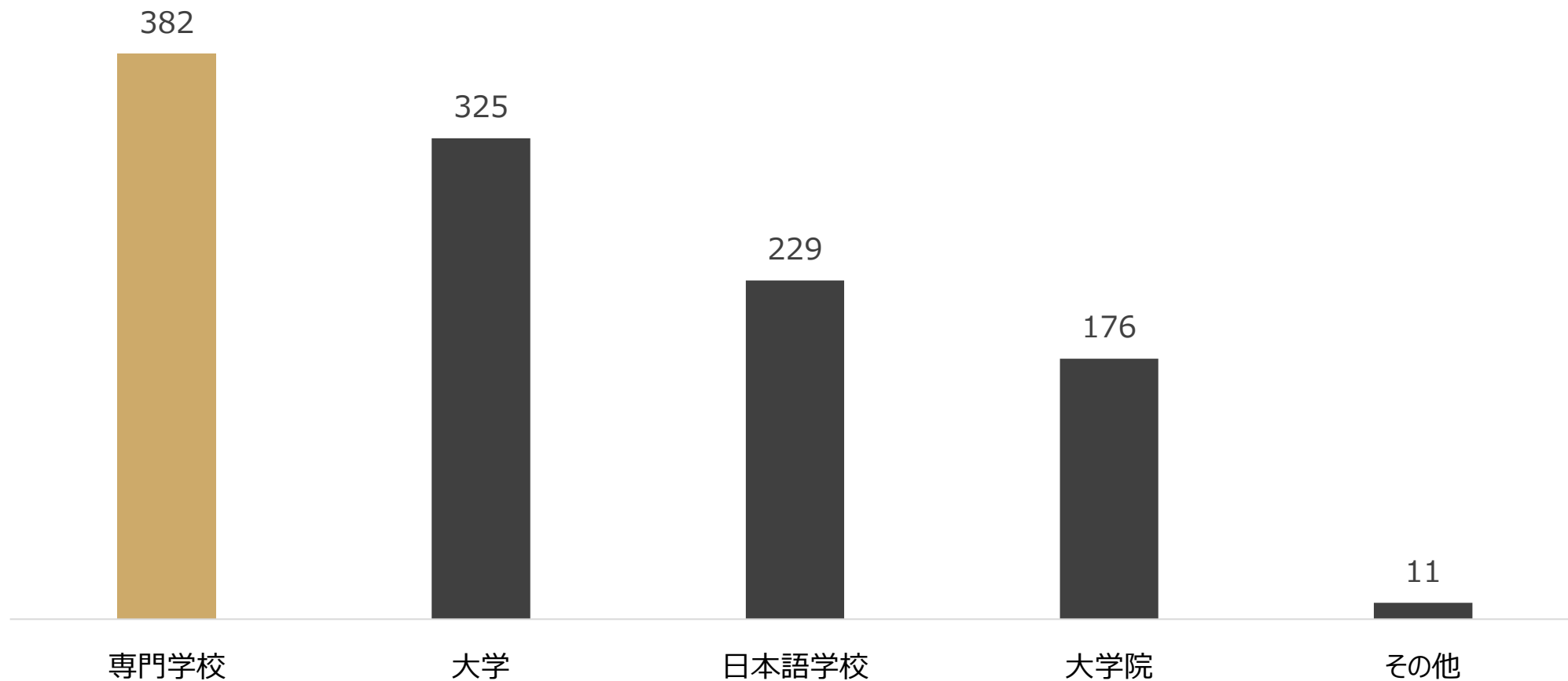
女性回答者の方が若干多い



学校の種類

Q. 通っている学校の種類は何ですか

回答者には**専門学校生**が一番多い



教育機関別の回答者数

専門学校	
大阪観光ビジネス学院	221
関西外語専門学校	28
大阪総合デザイン専門学校	27
エール学園	16
駿台観光アンド外語ビジネス専門学校	15
ボプラ介護福祉学校	12
大阪工業技術専門学校	10
中央工学校OSAKA	10
大阪観光専門学校	3
関西社会介護福祉専門学校	3
上田女子服飾専門学校	2
ホンダ学園	2
名古屋国際外語学院	2
清風情報工科学院	2
大阪デザイナー専門学校	2
大阪バイオメディカル専門学校	2
関西社会介護福祉専門学校	2
国際調理専門学校	1
関西経理専門学校	1
大阪医専	1
大阪文化服装学院	1
辻学園栄養専門学校	1
辻製菓専門学校	1
ECC国際外語専門学校	1
奈良コンピュータ専門学校	1
富士メカニック専門学校	1
ヴェールルージュ美容専門学校	1
森ノ宮医療学園ウェルランゲージスクール	1
その他	6

大学（短大を含む）	
大阪産業大学	54
大阪大学	52
大阪女学院大学	22
東大阪大学	19
大阪国際大学	15
大阪工業大学	12
立命館大学	11
大阪経済大学	11
近畿大学	11
摂南大学	10
関西外国語大学	9
関西大学	9
大阪教育大学	7
大阪公立大学	6
関西学院大学	5
神戸大学	5
羽衣国際大学	3
大阪樟蔭女子大学	3
大阪成蹊大学	3
大阪市立大学	2
大阪府立大学	2
追手門学院大学	2
京都大学	2
東京大学	2
流通科学大学	2
相愛大学	2
大阪学院大学	2
大阪経済法科大学	1
大阪芸術	1
日本経済大学神戸	1
日本大学	1
甲南大学	1
阪南大学	1
京都ノートルダム女子大学	1
京都産業大学	1
神戸医療福祉大学	1
同志社大学	1
太成学院大学	1
その他	22

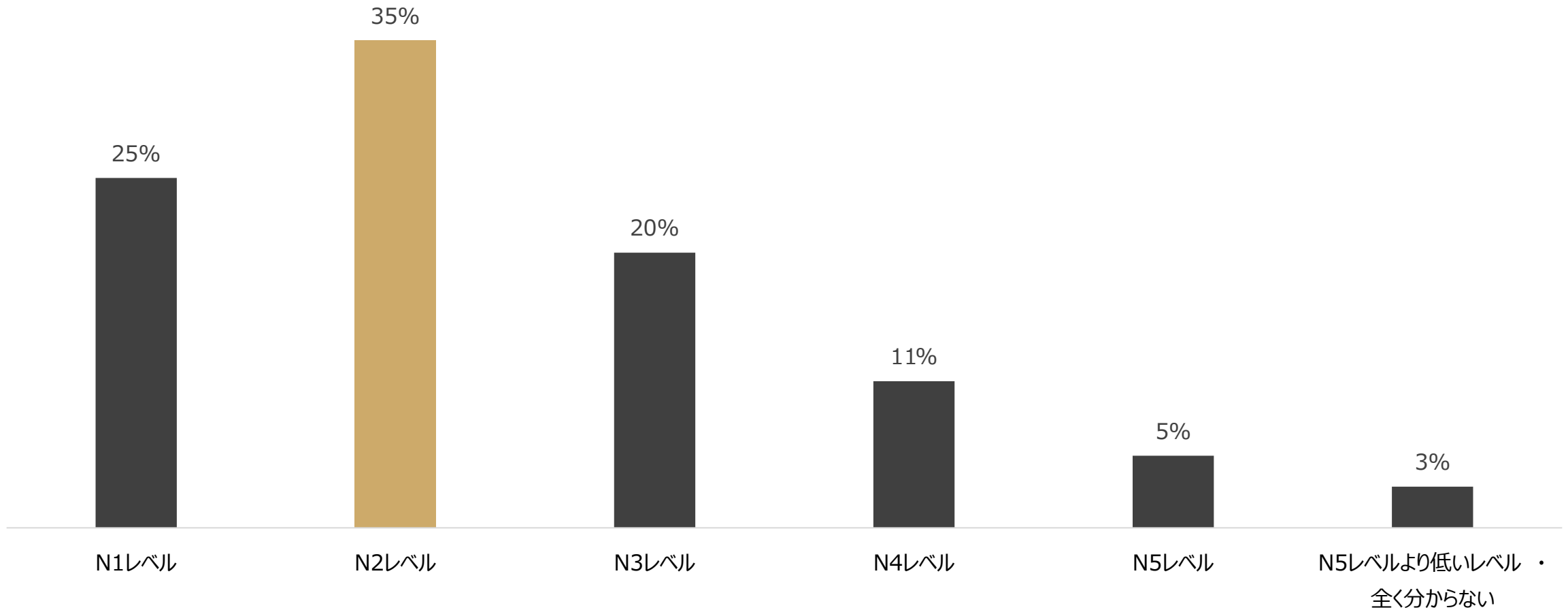
日本語学校	
ホツマインターナショナルスクール	110
大阪YMCA学院	107
阿部野日本語学院	9
ファーストスタディ日本語学校	4
大阪日本語教育センター	3
BASIC日本語学院	2
ECC国際外語専門学校	2
クローバー学院	2
メリック日本語学校	2
コミュニカ学院	1
ABK学館日本語学校	1
ループインターナショナル日本語学校	1
森ノ宮医療学園ウェルランゲージスクール	1
大阪国際アカデミー	1
大和国際教育学院	1
東京平田日本語学院	1
日生日本語学園	1
万和国際教育学院	1
その他	6

大学院	
大阪大学	94
関西大学	15
大阪経済大学	9
神戸大学	8
大阪公立大学	6
立命館大学	6
大阪工業大学	6
大阪女学院大学	4
奈良先端科学技術大学院大学	3
大阪産業大学	2
大阪電気通信大学	2
大阪府立大学	2
東大阪大学	2
大阪市立大学	1
大阪体育大学	1
京都情報大学院大学	1
兵庫県立大学	1
広島市立大学	1
北陸先端科学技術大学院大学	1
京都大学	1
近畿大学	1
大阪芸術大学	1
摂南大学	1
神戸市外国語大学	1
その他	5

日本語能力

Q. あなたの日本語能力はどのレベルですか

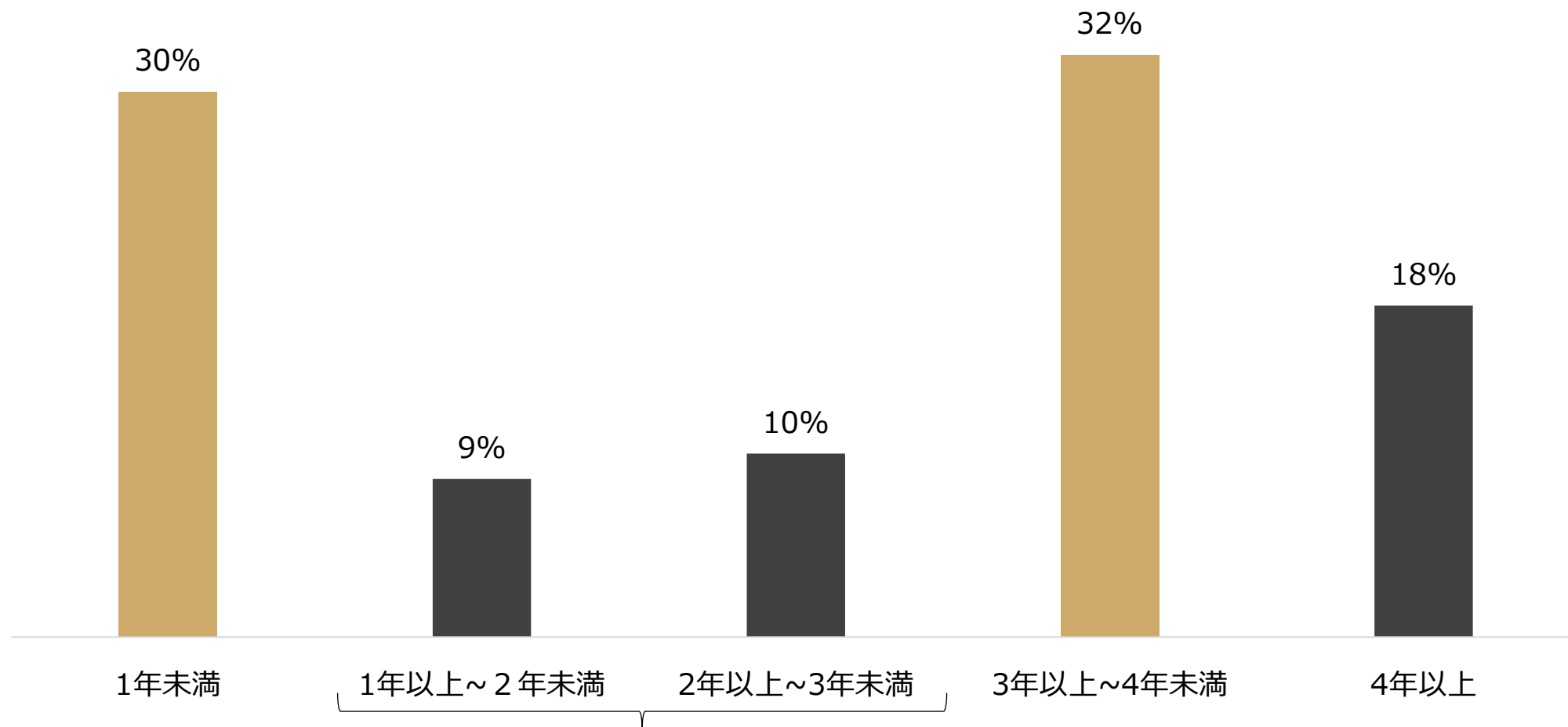
日本語能力が**N2**レベルである回答者が特に多い



日本での留学期間

Q. 日本に留学し始めた年を教えてください

「1年未満」、「3年以上～4年未満」の回答者が特に多い



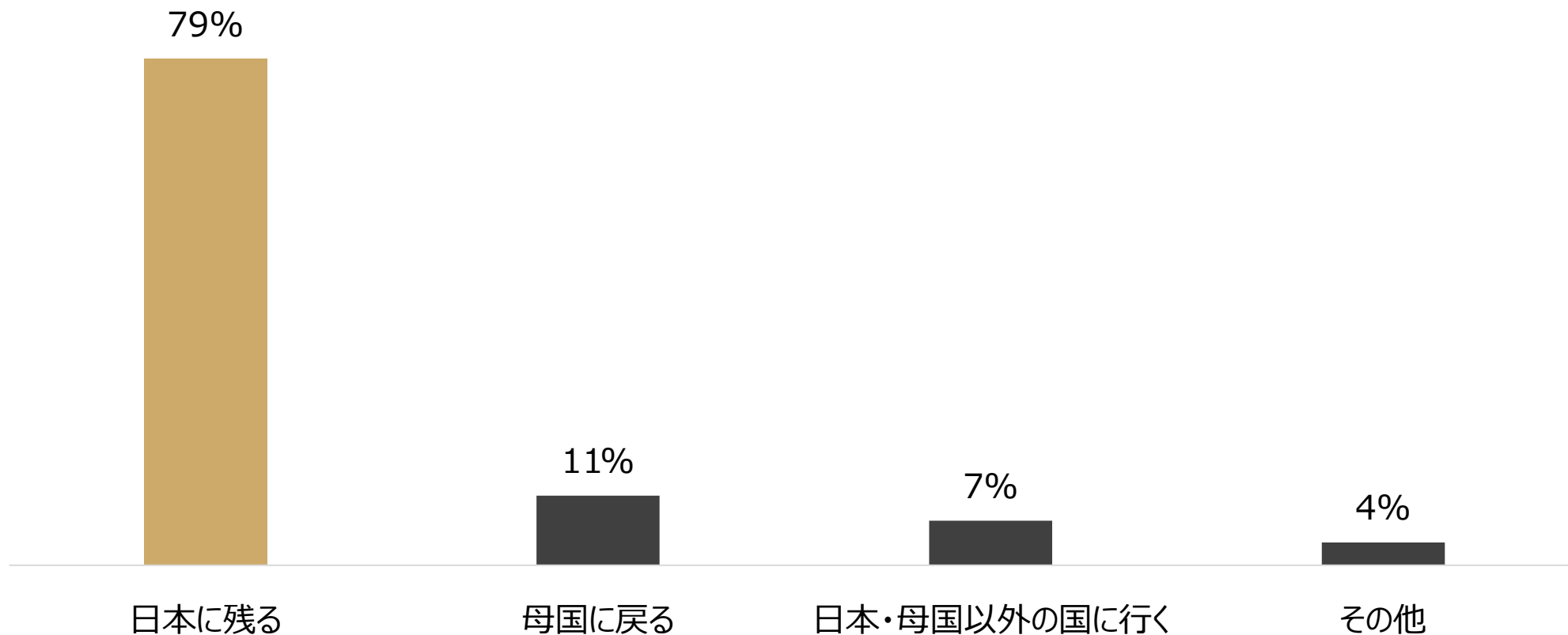
注：「1年以上～3年未満」が少ないのは、COVID-19のことで新しい留学生の数が減少した結果であるかもしれない。

回答者の回答 (実績のみ)

進路予定・つもり ①

Q. 現在通っている学校を卒業すると、次に何をするつもり/予定ですか

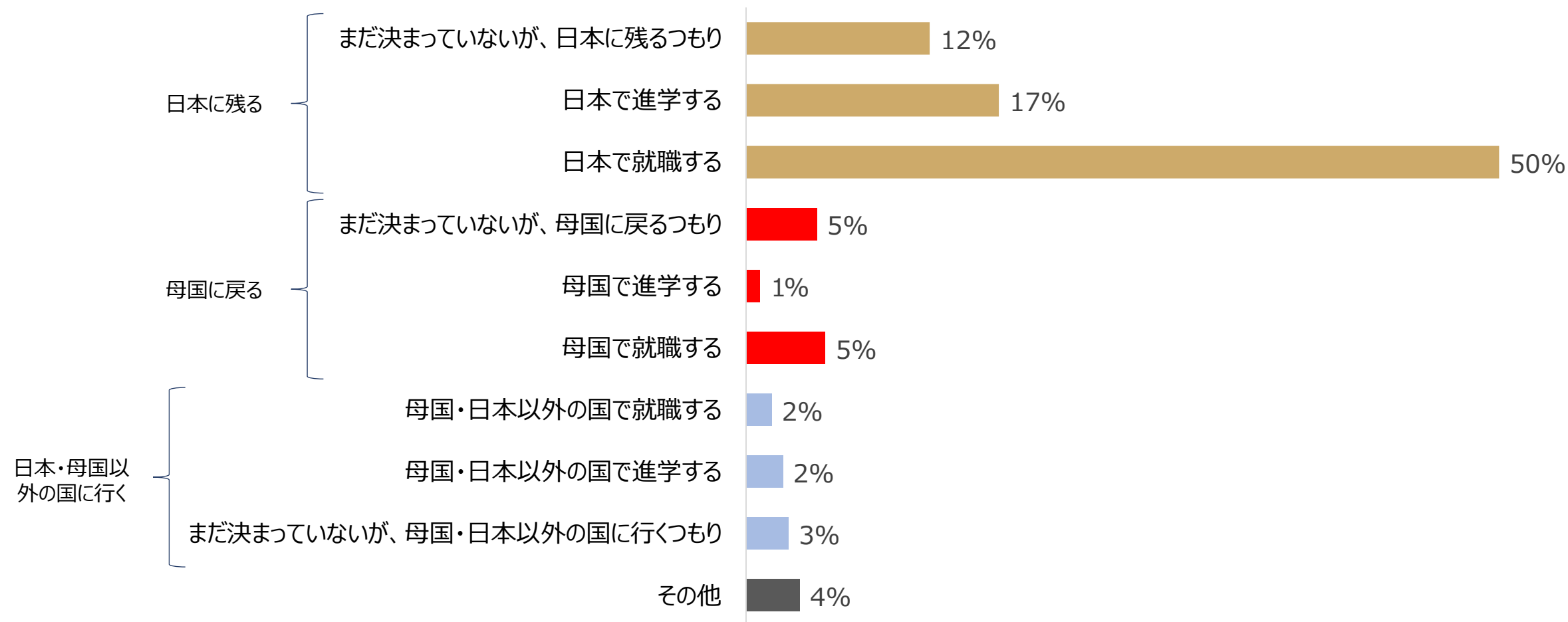
卒業後「**日本に残りたい**」留学生が特に多い



進路予定・つもり ②

Q. 現在通っている学校を卒業すると、次に何をするつもり/予定ですか

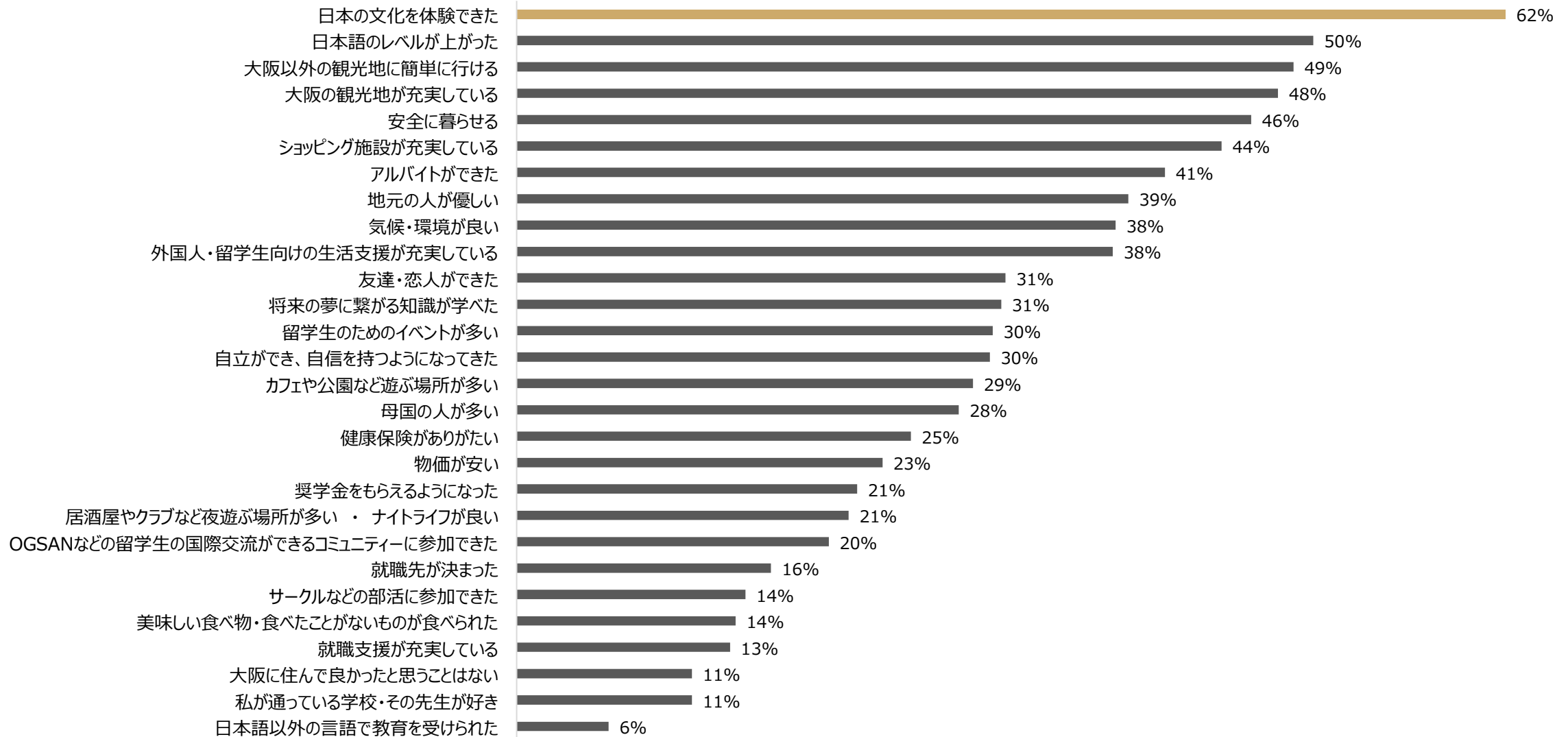
卒業後「**日本に残りたい**」留学生が特に多い



大阪に住んで良かったこと

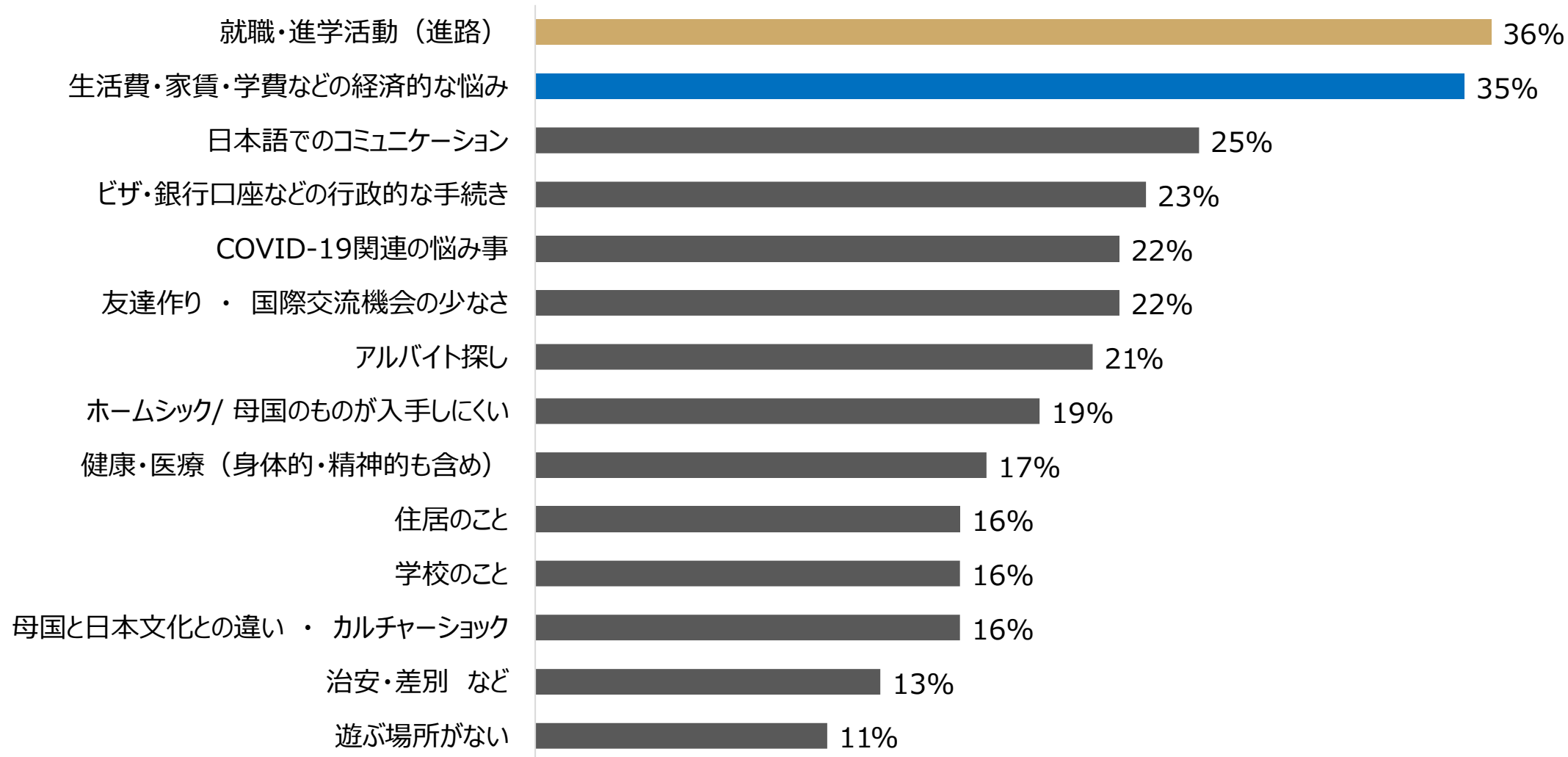
Q. 大阪に住んでよかったと思うことは何ですか（該当なものをすべて選んでください）

No.1 大阪に住んで良かった理由は「日本の文化を体験できた」ことである



Q. 次のテーマで悩んでいる度合いを選んでください（とても悩んでいる = 5、とても悩んでいない = 1）

「進路活動」や「経済的なこと」で悩む人が特に多い

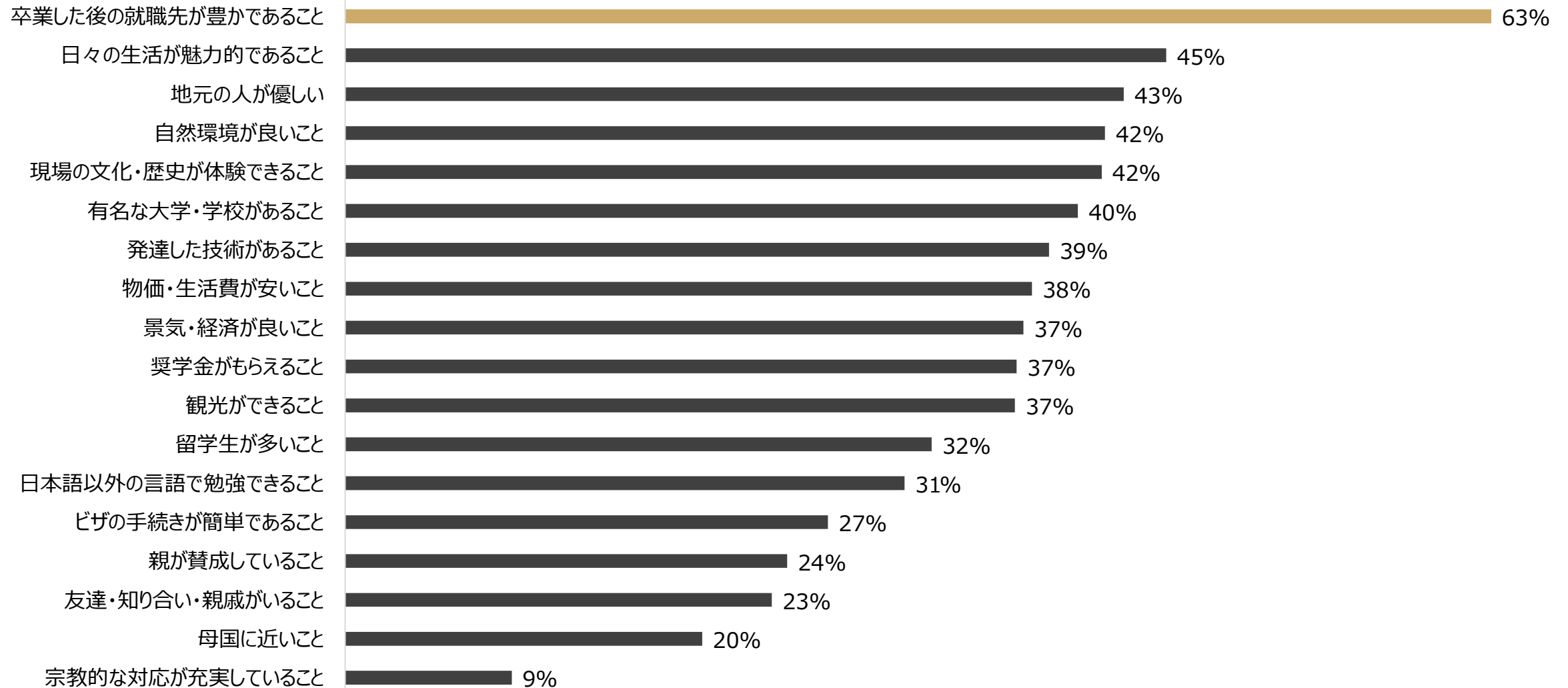


※4以上を「悩んでいる」とする

留学先を選ぶ理由

Q. 留学先を選ぶ際、特に重要だと思う項目を選んでください（該当なものをすべて選んでください）

No.1 重視事項は「就職先が豊かであること」



パート 2

問題解決に向けた分析

留学生の満足度

分析目的

分析で知りたいこと:

大阪で学んでいる留学生の満足度にどのような要因が影響を及ぼしているのか。



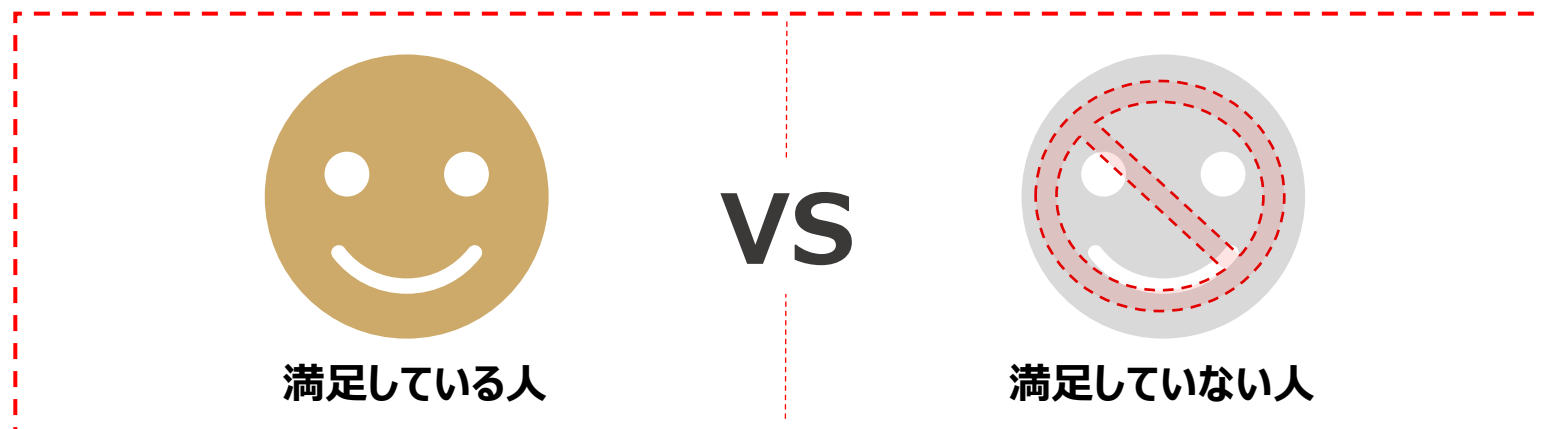
分析の活躍方法:

留学生の満足度向上につながるようなこと、また阻害していることを特定した上で、留学生の満足度向上に寄与できるような対策の政策を可能とする。

分析方法：ロジスティック回帰分析

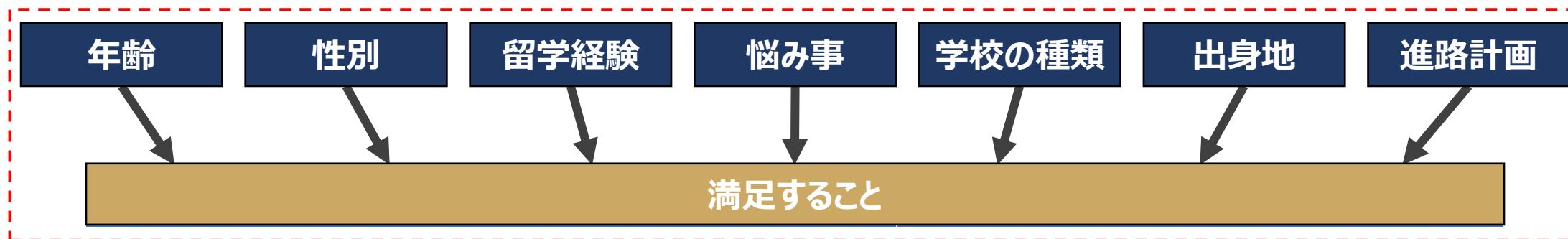
例：

知りたいこと：どのような人が満足する傾向が高いのか



「満足している人」と「満足していない人」を比較し、
どの項目が「満足すること」に影響を及ぼしているかを検証する

例：



有意に影響があると考えて良い項目を特定し、影響の程度を**オッズ比※**で示す

例：



出身地が「中国」の方は「ベトナム」の方に比べ、満足する傾向が 高くなる	2.39	→ 「確率が2.39倍上がる」
出身地が「ネパール」の方は「ベトナム」の方に比べ、満足する傾向が 低くなる	0.43	→ 「確率が57%下がる」

※次のページに説明あり

参考資料：オッズ比（Odds Ratio）について

オッズ比とはあることの状態が変わることにより、あること（例えば：「〇〇商品を購入する、〇〇病気になる」）が起きる確率がどれほど変わるか（増えるか・減るか）ということを示しているものです。

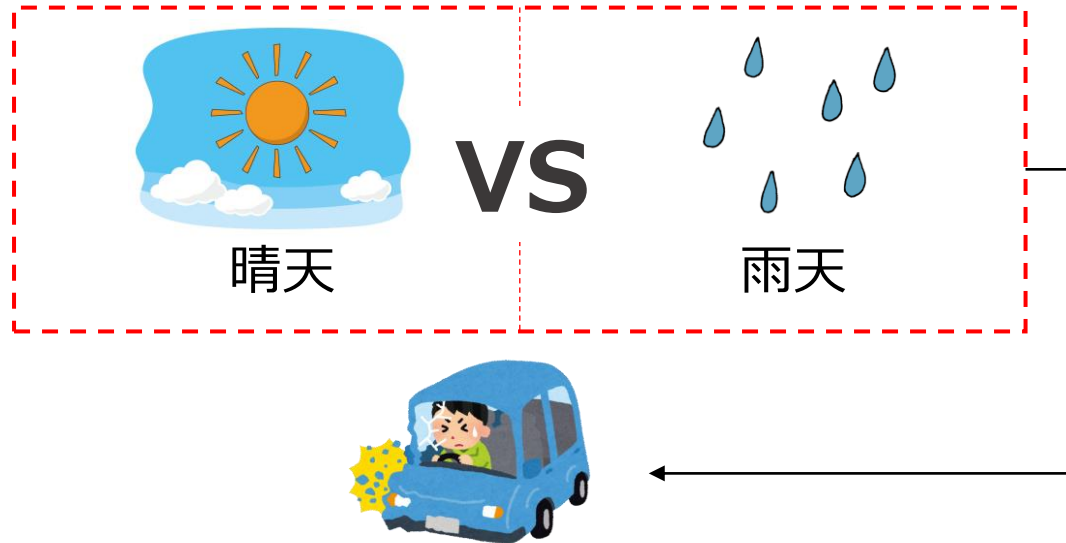
例えば：「晴天の日に比べ、雨天の日であることにより交通事故が起きる確率がどれほど変わるか」を検証する時などに使えます。

晴天の日及び雨天の日の交通データを集め、晴天の日を比較対象として分析します。

分析した結果、2.0のオッズ比が結果として出た場合、雨天の日は晴天の日に比べ、交通事故が起きる確率・可能性が2倍増えるという意味になります。0.5という結果が出た場合、逆に交通事故が起きる確率が半分になるという意味となります。1.0という結果が出た場合、交通事故が起きる確率が変わらないという意味になります。

例：天気による交通事故への影響

知りたいこと



ロジスティック回帰分析



晴天の日に比べ、雨天の日であることにより交通事故が起きる確率がどれほど変わるかを検証。

分析結果（オッズ比）

2.0

解釈： 「雨天の日」は「晴天の日」に比べ、交通事故が起きる確率が2倍高くなる。

【注】：上記のオッズ比は例だけ

大阪観光局で行っているデータ分析も同様です。あることの状態が変わることにより（例えば性別・年齢）、〇〇市町村や〇〇施設への訪問がどれほど変わるのかというような分析し、訪問する可能性の高い人を明確にしています。

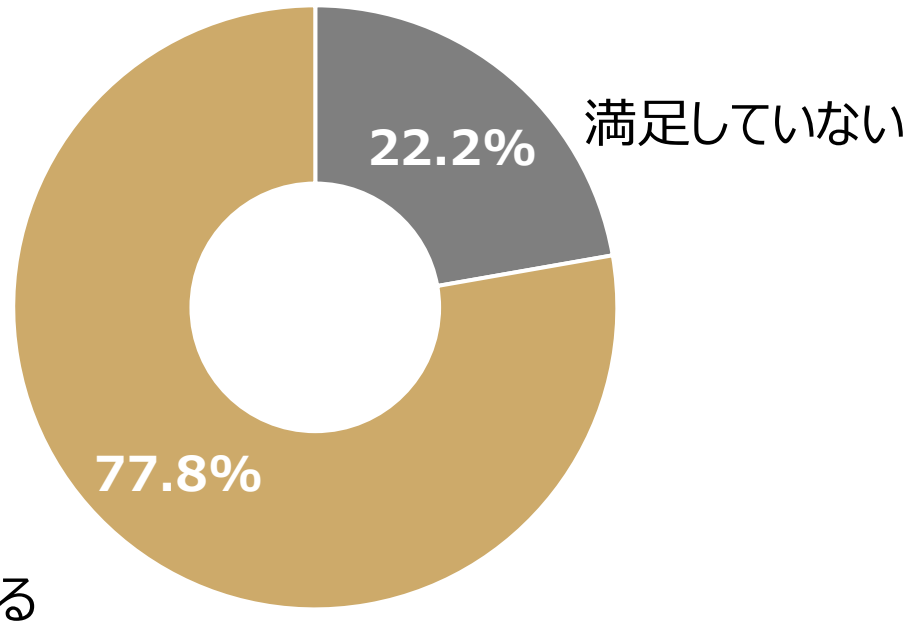
満足度の現状

Q. 大阪での留学に関しては全体的にどのくらい満足していますか（1 = とても不満, 5 = とても満足）

3年間で留学生の満足度にほぼ変化なし

77.8%の留学生は満足している

留学生の満足率



3年間であまり変わりなし

満足度の推移（満足率）

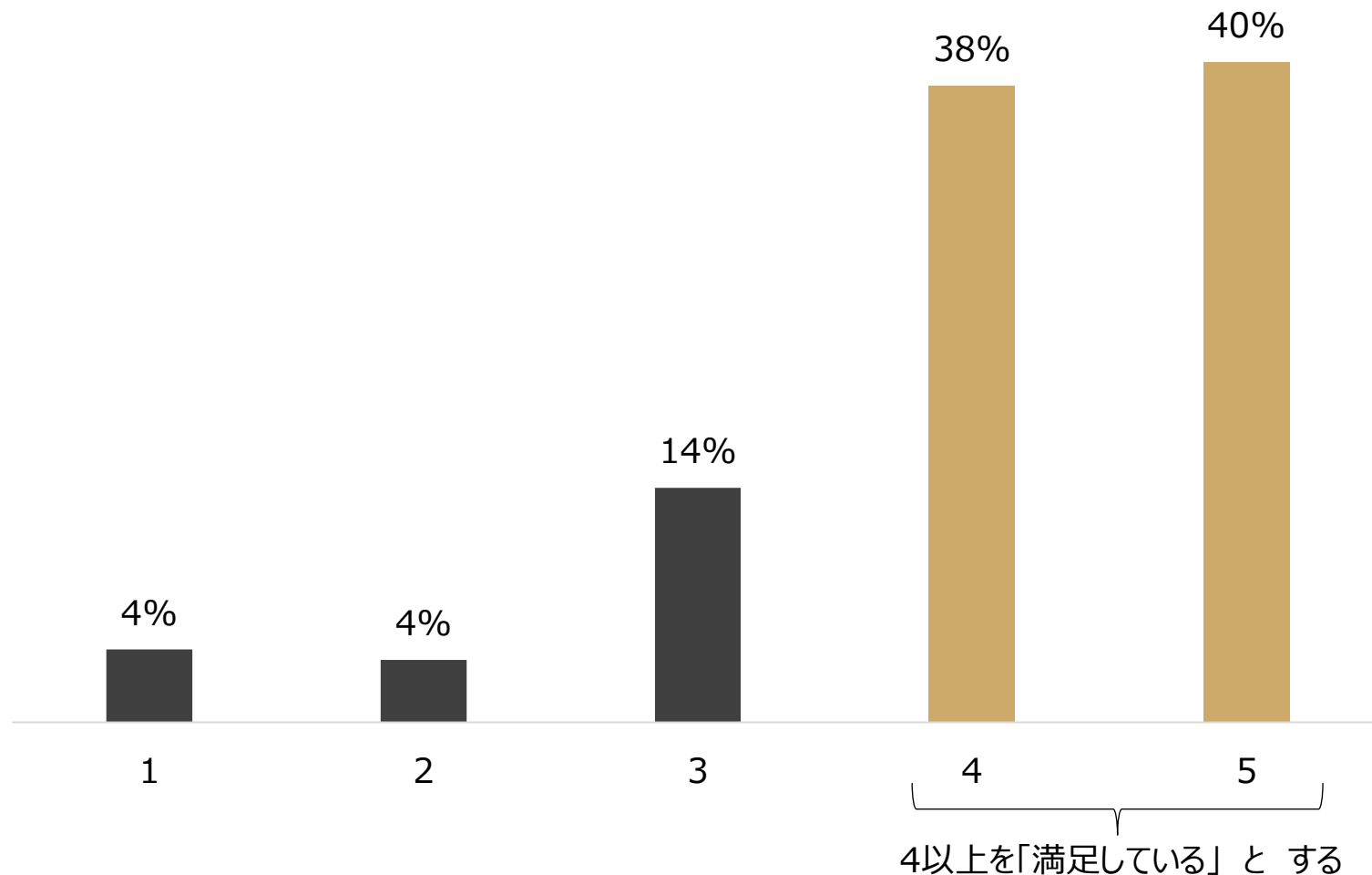


※4以上を「満足している」とする

満足度の現状 — 内訳

Q. 大阪での留学に関しては全体的にどのくらい満足していますか（1 = とても不満, 5 = とても満足）

回答者の全体的な満足度



推奨アクション

留学生の満足向上に向けた推奨アクション — まとめ

分析の結果、下記の取り組みを強化すれば、留学生の満足度向上に貢献できると考えられる。

強調すべき取り組み

奨学金

- 奨学金がもらえる機会の増加・紹介。

イベント

- 留学生向けのイベントの増加。
- 地元の人と接せるイベントの作成。

生活支援

- 留学生向けの生活支援をさらに充実させ、それらを十分に留学生に知ってもらう。
- 留学生の成長及び自立につながるような支援を提供する。

優先すべき課題解決

経済的な問題

- 経済的な問題に関する金銭的な支援や精神的な支援策などを検討し、可能な限り留学生の経済的な悩みを和らげる対策を作成。

住居問題

※ヒント程度

- 住居のことの中で特に何が課題なのかを把握した後、適切な解決方法を政策。

その他

ネパール市場

- ネパール人留学生による低い満足度についてさらに調べ、その原因を解決できる施策を立案。



ホームシックのことで悩んでいるネパール人留学生の方が満足する傾向が低くなるため、これを優先的に対応すべき。また、留学生のイベントが多いから良いと思うネパール人が満足する傾向が高くなるので、留学生のためのイベントを積極的にネパール人留学生に参加してもらおうと良い。

東アジア・欧米豪・中国

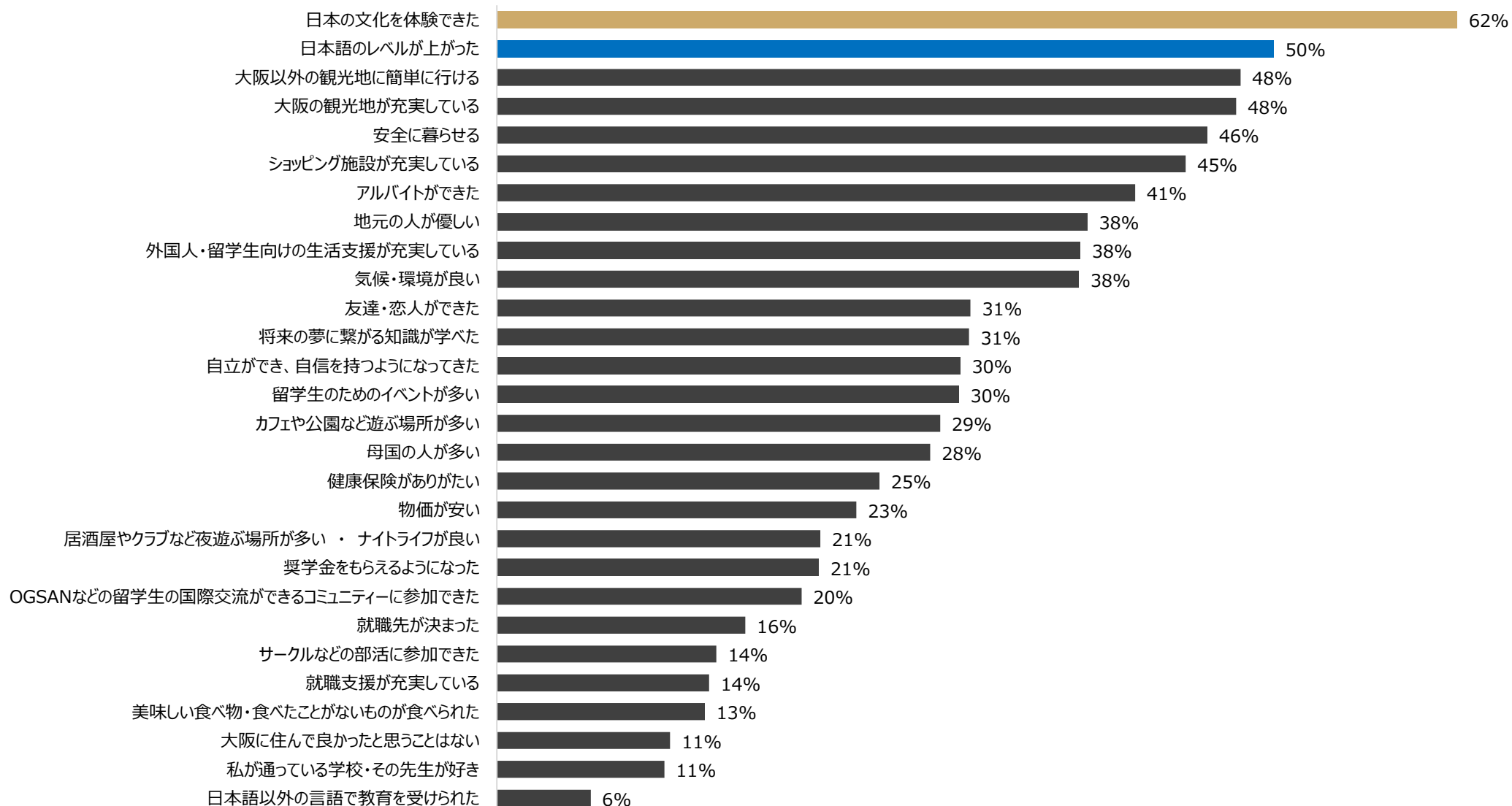
- 上記の市場の高い満足度結果について調べ、他の市場でも享受できることがあれば、新しい施策を立案したり、拡大したりする。

大阪に住んでよかったこと

大阪に住んでよかったこと - 実績

Q.大阪に住んでよかったと思うことは何ですか（該当なものをすべて選んでください）

「日本の文化体験ができた」や「日本語のレベルが上がった」という答えが特に多かった



大阪に住んでよかったこと – 良い影響を及ぼしていること

Q.大阪に住んでよかったと思うことは何ですか（該当なものをすべて選んでください）

大阪に住んでよかった理由が下記の項目だと回答した人の方が**満足する傾向が高い**

奨学金がもらえるようになった



留学生のためのイベントが多い



外国人・留学生向けの生活支援が充実している



地元の人が優しい



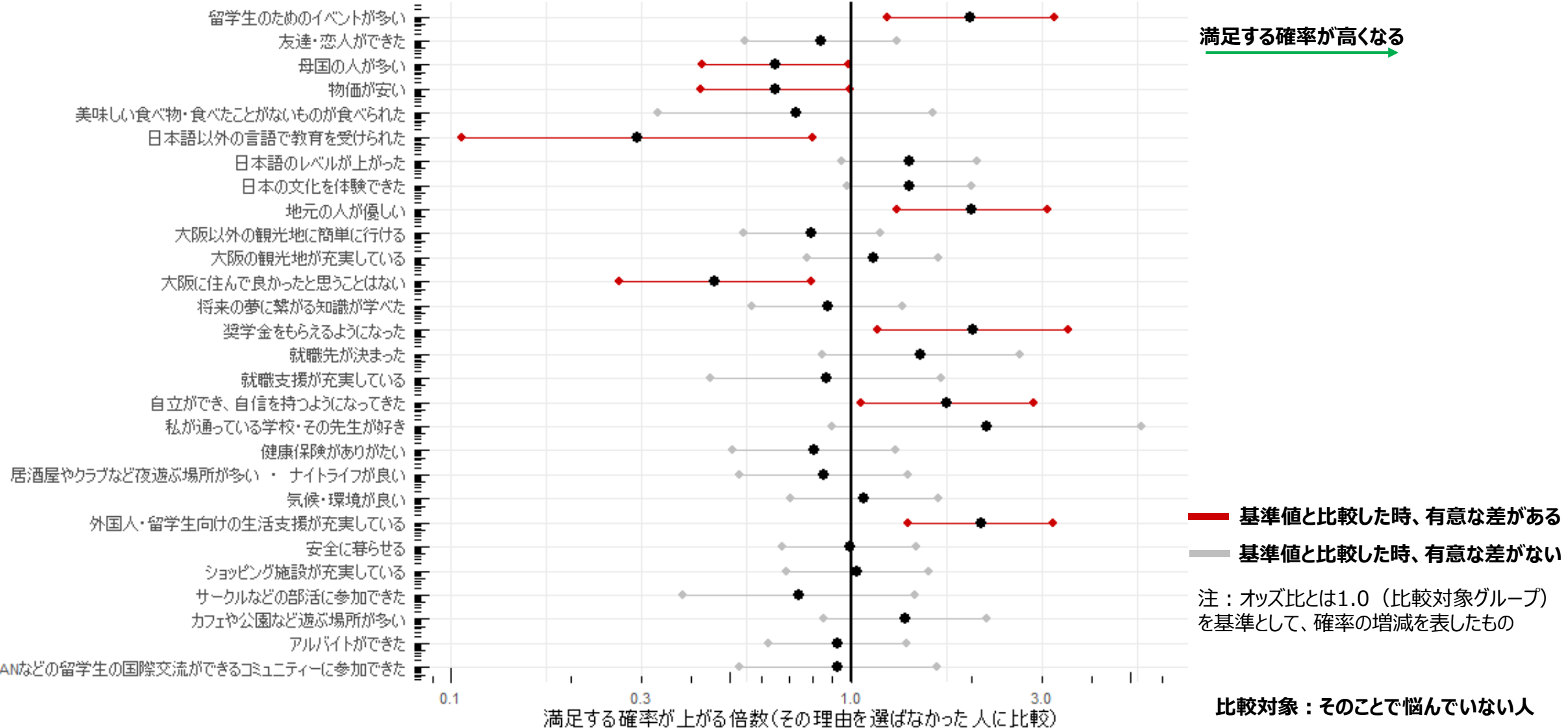
自立ができ、自信を持つようになってきた



大阪に住んでよかったこと

Q.大阪に住んでよかったと思うことは何ですか（該当なものをすべて選んでください）

大阪に住んで良かったと思う理由が、その人が満足しているかしていないかに影響があると考えられる



大阪に住んでよかったこと

Q.大阪に住んでよかったと思うことは何ですか（該当なものをすべて選んでください）

大阪に住んで良かったと思う理由が、その人が満足しているかしていないかに影響があると考えられる

満足向上に関連する要因	「外国人・留学生向けの生活支援が充実している」から大阪に住んでよかったと思う人はそうではない人に比べ、満足する傾向が高くなる	2.11
	「奨学金をもらえるようになった」から大阪に住んでよかったと思う人はそうではない人に比べ、満足する傾向が高くなる	2.01
	「地元の人が優しい」から大阪に住んでよかったと思う人はそうではない人に比べ、満足する傾向が高くなる	2.01
	「留学生のためのイベントが多い」から大阪に住んでよかったと思う人はそうではない人に比べ、満足する傾向が高くなる	1.99
	「自立ができ、自信を持つようになってきた」から大阪に住んでよかったと思う人はそうではない人に比べ、満足する傾向が高くなる	1.74
満足向上を阻んでいる項目	「物価が安い」から大阪に住んでよかったと思う人はそうではない人に比べ、満足する傾向が低くなる	0.64
	「母国の人が多い」から大阪に住んでよかったと思う人はそうではない人に比べ、満足する傾向が低くなる	0.64
	「大阪に住んで良かったと思うことはない」から大阪に住んでよかったと思う人はそうではない人に比べ、満足する傾向が低くなる	0.45
	「日本語以外の言語で教育を受けられた」から大阪に住んでよかったと思う人はそうではない人に比べ、満足する傾向が低くなる	0.29

大阪に住んでよかったこと - まとめ

Q.大阪に住んでよかったと思うことは何ですか（該当なものをすべて選んでください）

実用的な考察

イベント：

- 留学生のためのイベントが多いから大阪に住んで良かったと思う人の方が満足する傾向が高くなるため、留学生に向けた質の良いイベントを増やし、できるだけ多くの留学生に参加してもらおうと、留学生の満足度向上につながると考えられる。**※どのようなイベントが求められているのかについては別に調べる必要がある。**
- 地元の人が優しいから大阪に住んでよかったと思う人も特に満足する傾向が高いため、地元の人と接する機会になるようなイベントを作成・紹介するとさらに良いのではないかと考えられる。



奨学金：

- 奨学金がもらえてよかったと思う人の方が満足する傾向が2倍ほど高いので、奨学金をもらう機会を紹介したり、もらえるように支援する活動、また奨学金の作成などを検討すれば良い。

生活支援：

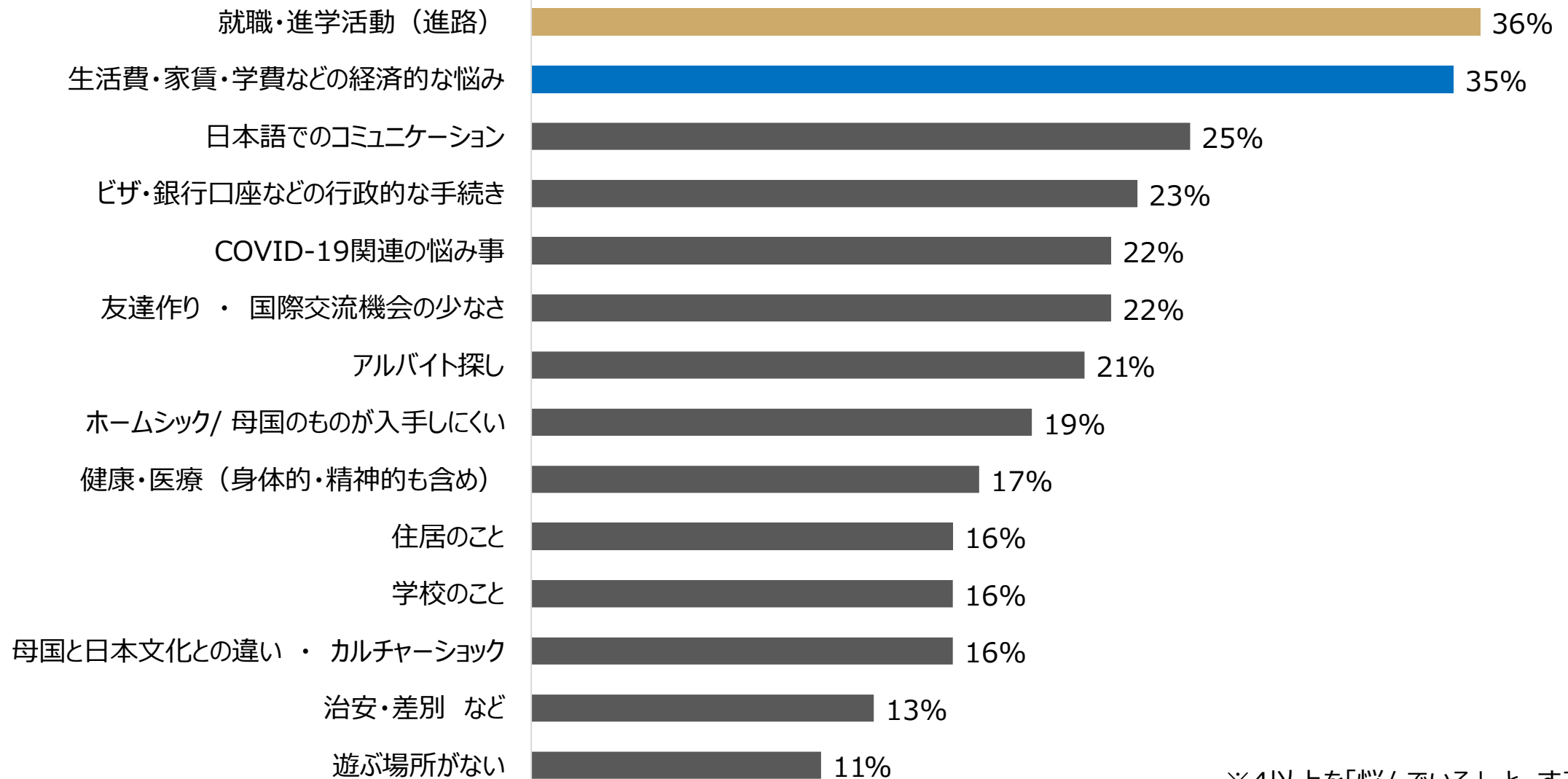
- 外国人・留学生向けの生活支援が充実しているから大阪に住んでよかったと思う人が特に満足する傾向が高いため、留学生向けの生活支援をさらに充実させ、それらを留学生に十分に知ってもらおうと良い。優しい地元の人が巻き込まれる支援策などもあれば特に響くと考えられる。
- 自立できたから大阪に住んで良かったと思う人の方が満足する傾向が高いため、留学生の個人的な成長及び自立につながるような支援を提供すると効果がある可能性あり。

留学生の悩み事

悩み事 - 実績

Q. 次のテーマで悩んでいる度合いを選んでください (とても悩んでいる = 5、とても悩んでいない = 1)

「進路活動」や「経済的なこと」で悩む人が特に多い



※4以上を「悩んでいる」とする

悩み事 - 満足度に特に影響があると考えられる要因

Q. 次のテーマで悩んでいる度合いを選んでください (とても悩んでいる = 5、とても悩んでいない = 1)

「生活費・家賃・学費などの経済的な悩み」を持っている留学生は満足する傾向が**低くなる**



「COVID-19関連の悩み事」で悩んでいる人はそうではない人に比べ、満足する傾向が高くなる

1.65

「生活費・家賃・学費などの経済的な悩み」で悩んでいる人はそうではない人に比べ、満足する傾向が低くなる

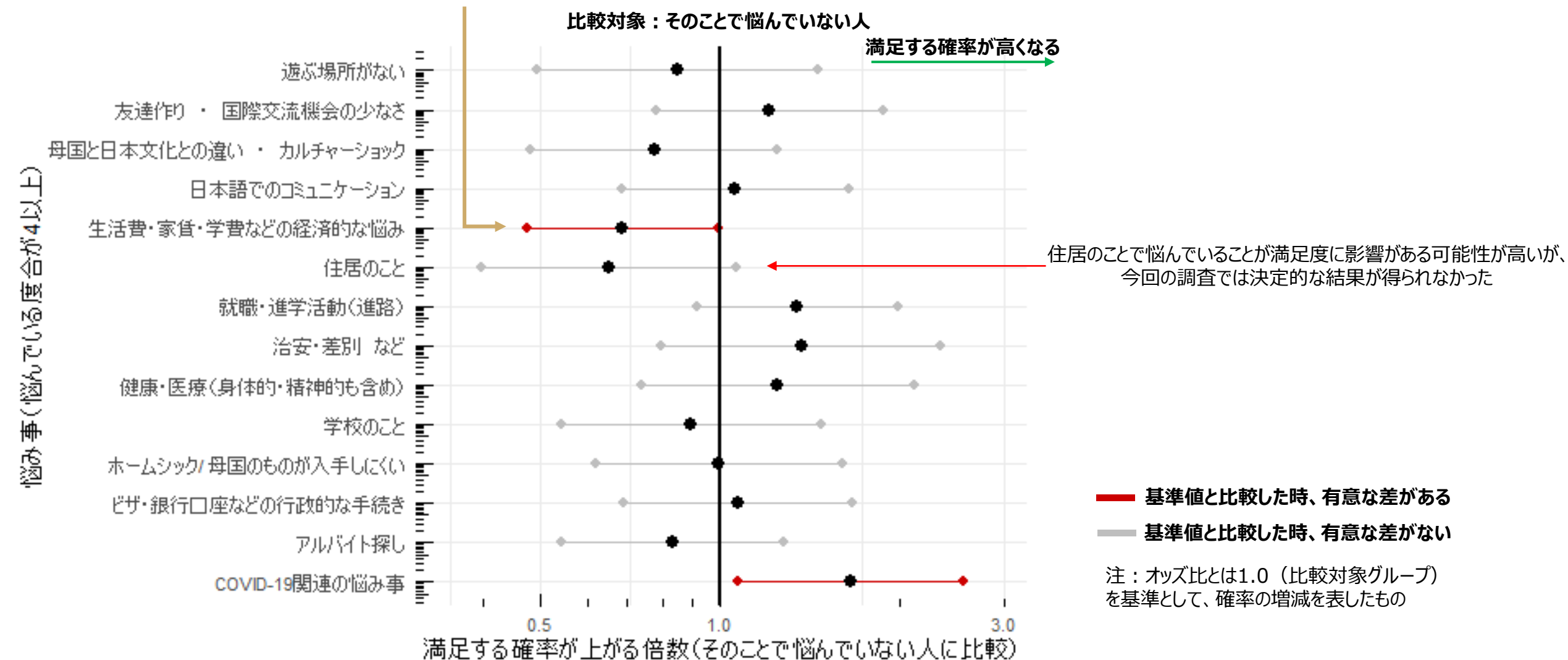
0.68

コロナウイルスは留学生の満足度に直接に悪い影響を及ぼしていないと考えられる。

悩み事

Q.次のテーマで悩んでいる度合いを選んでください（とても悩んでいる = 5、とても悩んでいない = 1）

経済的な悩み事があることが特に満足しないことに影響を及ぼしていると考えられる



※4以上を「悩んでいる」とする

Q. 次のテーマで悩んでいる度合いを選んでください（とても悩んでいる = 5、とても悩んでいない = 1）

実用的な考察

経済的な悩み

- 経済的な悩みを持っている留学生の方が満足する傾向が低くなるという結果が得られており、またこれで悩んでいる留学生が割合に多いため、経済的な悩みが緩和できるような対策の作成やすでにある支援策の紹介及び宣伝を優先的に捉えた方が良いと考えられる。



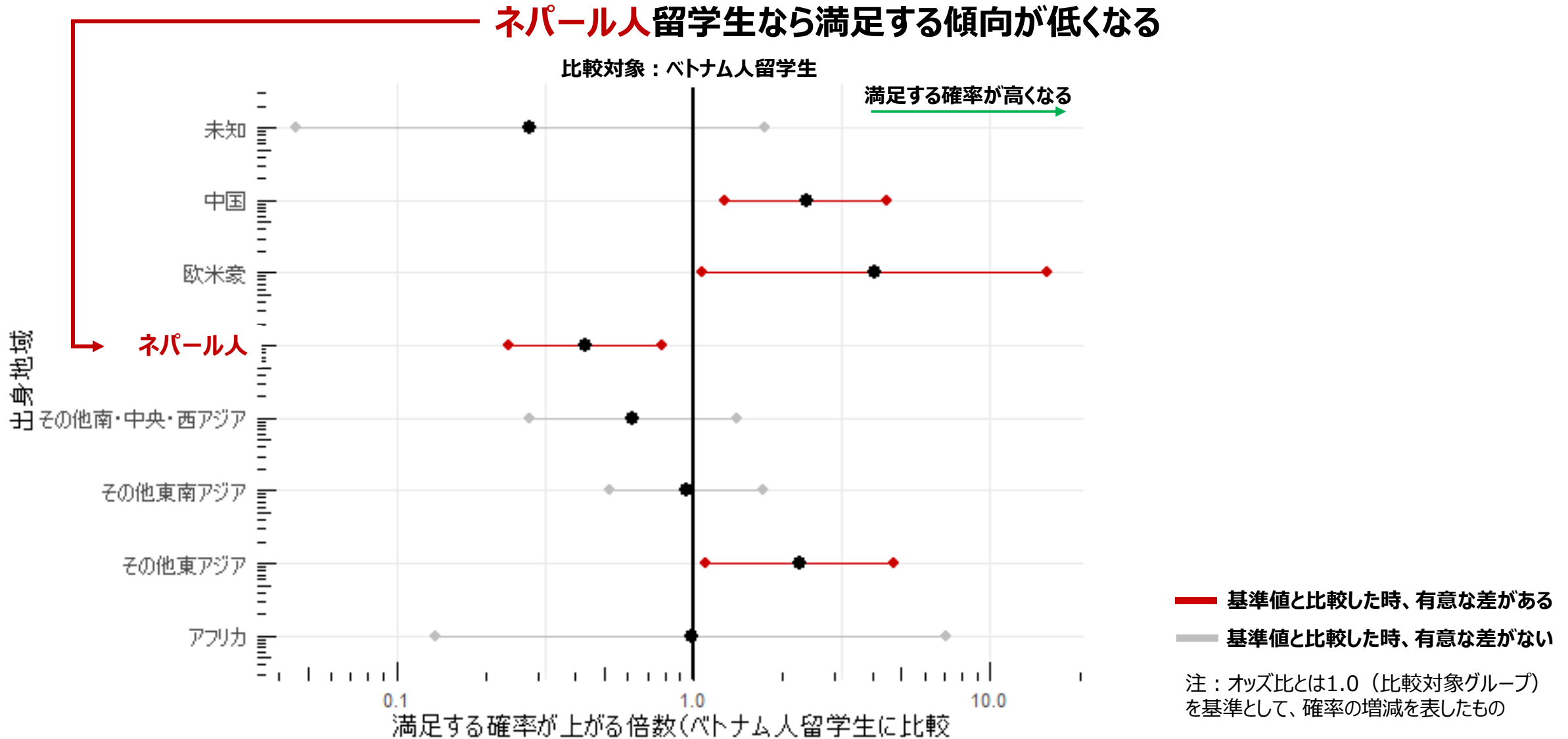
住居に関する問題

- エビデンスになるほど、住居で悩んでいることが留学生の満足度向上を阻止しているといえる結果が得られなかったが、有意な結果に近い結果（P値 = 0.08（0.05を有意性の水準としている））が得られているため、住居のことでどのような問題があるのかを把握し該当な問題に貢献できる機会があるかどうか調査した方が良いと考えられる。

出身地・地域

出身地域

Q. 出身国・地域



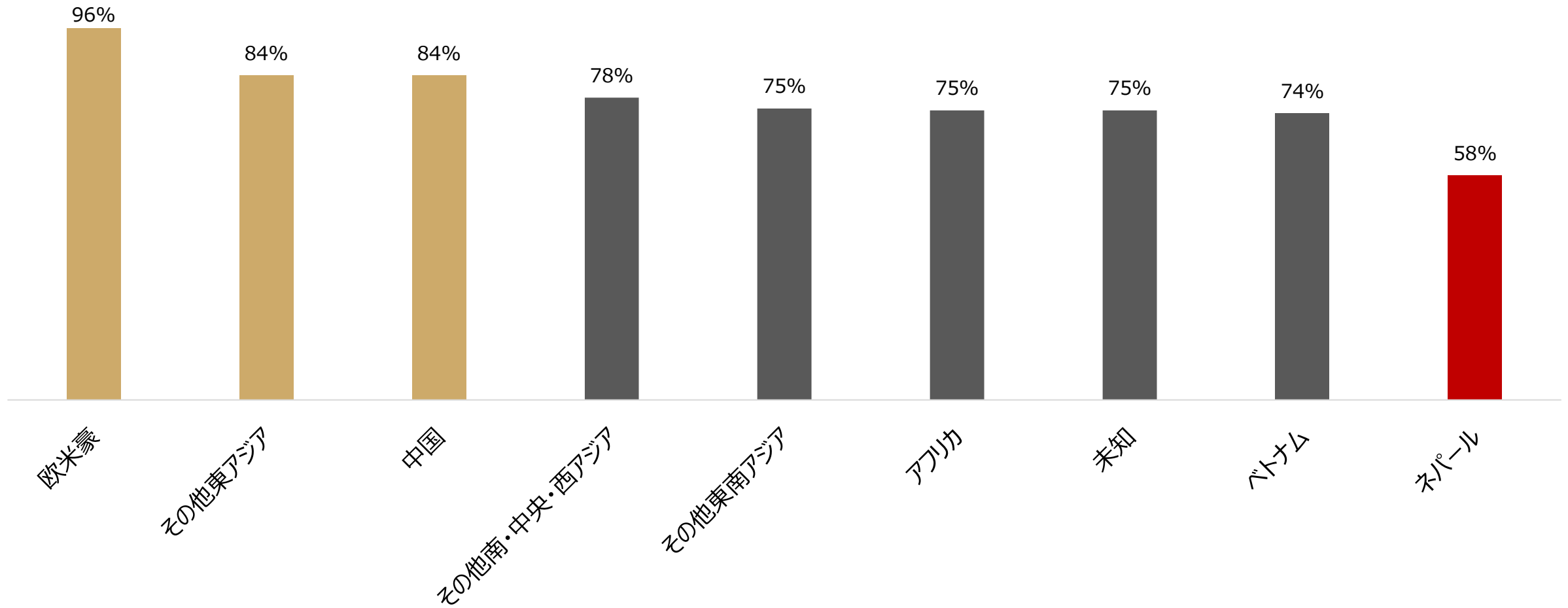
ネパール人留学生なら満足する確率が57%ほど低くなる

「欧米豪」から来た人はベトナム人に比べ、満足する傾向が高くなる	4.06
「中国」から来た人はベトナム人に比べ、満足する傾向が高くなる	2.39
「その他東アジア」から来た人はベトナム人に比べ、満足する傾向が高くなる	2.28
「ネパール」から来た人はベトナム人に比べ、満足する傾向が低くなる	0.43

出身地域

Q. 出身国・地域

ネパール人の満足度が特に低いのに対して、**欧米豪**、**中国**、**その他東アジア**の留学生なら満足度が高い傾向がある



実用的な考察

欧米豪、中国、その他東アジア

- 上記の市場は特に満足する傾向が高いため、可能な限りそれらの満足度結果について調べ、他の市場でも享受できることがあれば、新しい施策を立案したり、拡大したりすれば良い。



ネパール

- ネパール人が他の市場と比較する時さほど満足しない要因や理由を特定し、それを解決できる対策を模索すれば良い。（次ページ参照）

ネパール人の満足度 – まとめ

Q. 出身国・地域

解決すべき問題：満足しないことに関連する項目

ホームシック/母国のものが入手しにくい



ホームシック/母国のものが入手しにくい

ホームシックネスで悩んでいるネパール人留学生の方が満足する傾向が非常に低くなる

促進すべきこと：満足することに関連する項目

留学生のためのイベントが多い



留学生のためのイベントが多い

留学生のためのイベントが多いから大阪に住んでよかったと思うネパール人留学生の方が満足する傾向が高い

私が通っている学校・その先生が好き



先生が好き

通っている学校の先生が好きだから大阪に住んでよかったと思うネパール人留学生の方が満足する傾向が高い

※結果のみ参照

満足度が低いのは時間で解決するものなのか 他市場の事例との比較

ネパール人留学生の急増、そして低い満足度

ネパールの若者の海外志向は強い。自国産業が発展していないことが大きな要因と言われている。日本への留学生では、週に28時間とは言えアルバイトが認められ、学費も安いこともあり、増加傾向にあり、昨年の留学生の入国再開に伴い一気に加速している。

今回のアンケート結果から、ネパール人留学生の満足度は58%と平均78%からも乖離している。生活費を稼ぐためアルバイトに忙しい、まだ自国のコミュニティが少ないなどのことが考えられるが、ネパールの留学生の就職率が他国に比べて低いことも関係しているのかもしれない。しかし、ネパール人への日本就職の期待は高い。その理由は高いホスピタリティと英語力である。

ただし、この留学生の急増に伴う問題点の顕在化は以前にもあったと何十年も留学生を受け入れている学校関係者は述べている。最近ではベトナム人留学生が急増したときである。ベトナム人コミュニティができ、留学生間でのアルバイトの継続もできると不安は解消された。その前は中国人留学生の増加期である。今はネパール人留学生の急増の過渡期と見ることができるが、ネパール人の困りごとは注視すべきことである。

例：中国人の満足度 – まとめ

Q. 出身国・地域

満足しないことに関連する項目



生活費・家賃・学費などの経済的な悩み

生活費・家賃・学費などの経済的な悩みを持っている中国人留学生の方が満足する傾向が非常に低くなる

満足することに関連する項目

外国人・留学生向けの生活支援が充実している



外国人・留学生向けの生活支援が充実している

外国人・留学生向けの生活支援が充実しているから大阪に住んでよかったと思う中国人留学生の方が満足する傾向が高い

※結果のみ参照

日本での留学期間

Q. 日本に留学し始めた年を教えてください

日本での留学期間により、満足度に関する**有意な差がある**（次ページ参照）

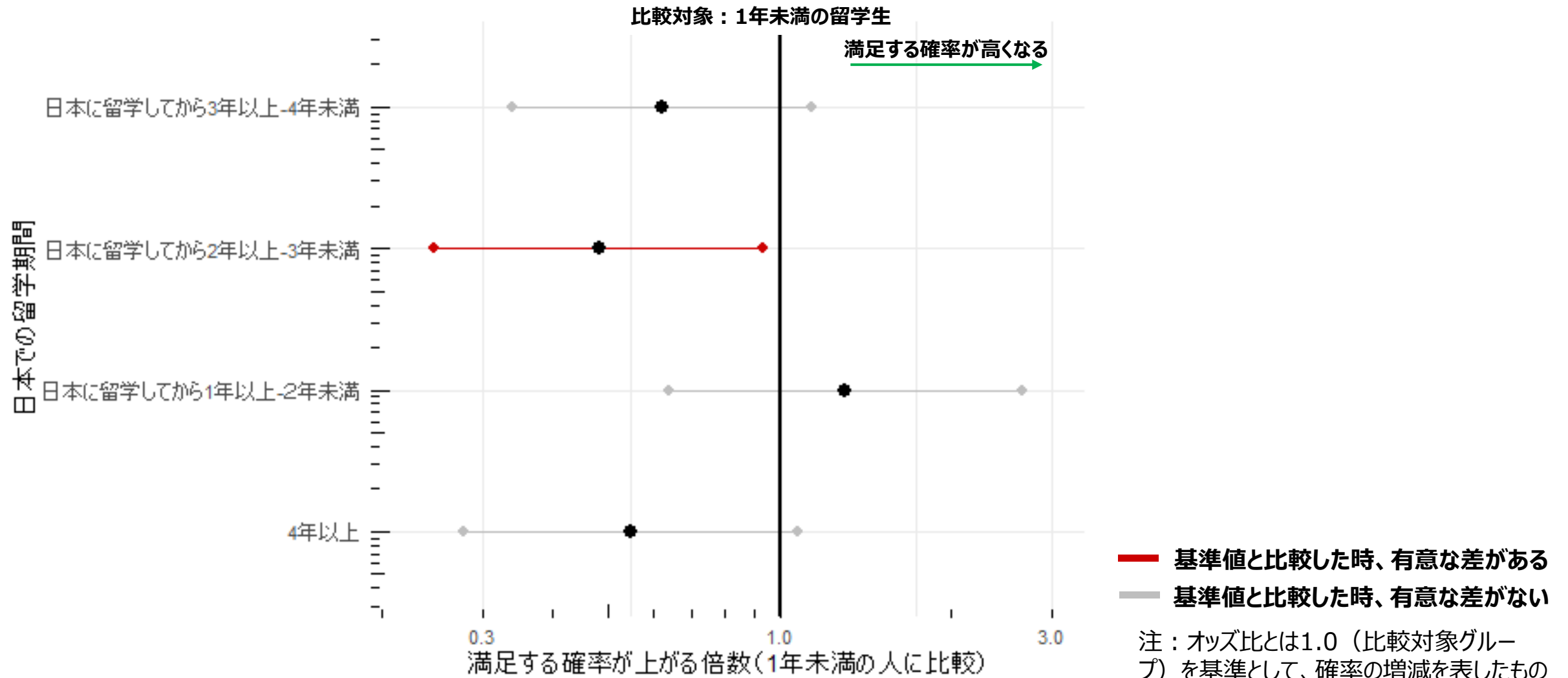
留学生の満足度（日本での留学期間別）



日本での留学期間

Q. 日本に留学し始めた年を教えてください

留学期間が2年以上～3年未満の留学生は1年未満の留学生に比べ、満足する傾向が**低くなる**



日本での留学期間

Q. 日本に留学し始めた年を教えてください

留学期間が2年以上～3年未満の留学生は1年未満の留学生に比べ、満足する傾向が約52%ほど低くなる

日本での留学期間が「2年以上～3年未満」の人は1年未満の人に比べ、満足する傾向が低くなる	0.48
--	------

Q. 日本に留学し始めた年を教えてください

実用的な考察

2年以上～3年未満の留学生



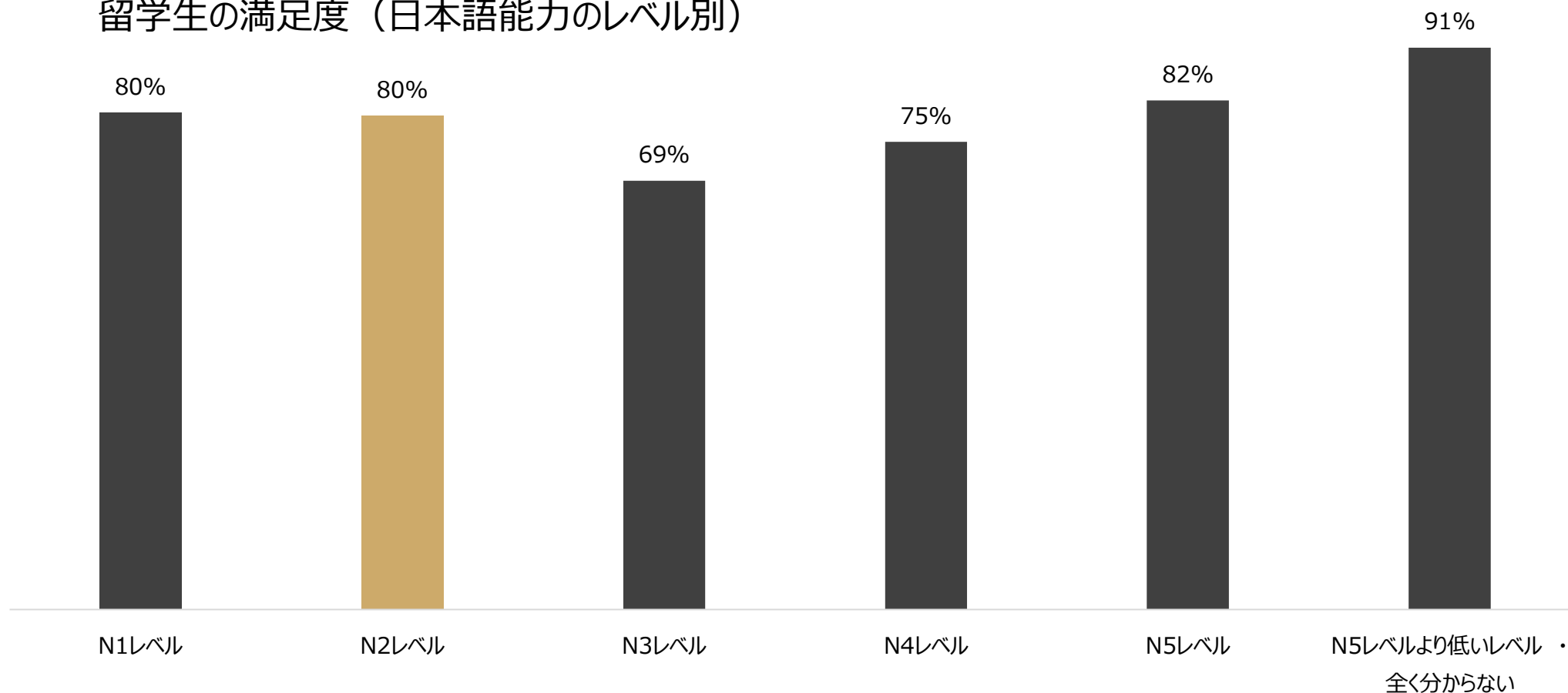
日本に留学してから2年以上～3年未満の人はさほど満足していない理由をまず特定し、これは今の集団（コホート）にしか関連しない傾向か、今後の世代にもかかわるものなのか知る必要がある。後者であれば、今後の留学世代にさほどが影響がないように早めに対応すれば良いと考えられる。

日本語能力

Q. あなたの日本語能力はどのレベルですか

N2レベルの日本語である人はN1レベルの人に比べ満足する傾向が高い傾向がある。詳細は次ページ

留学生の満足度（日本語能力のレベル別）



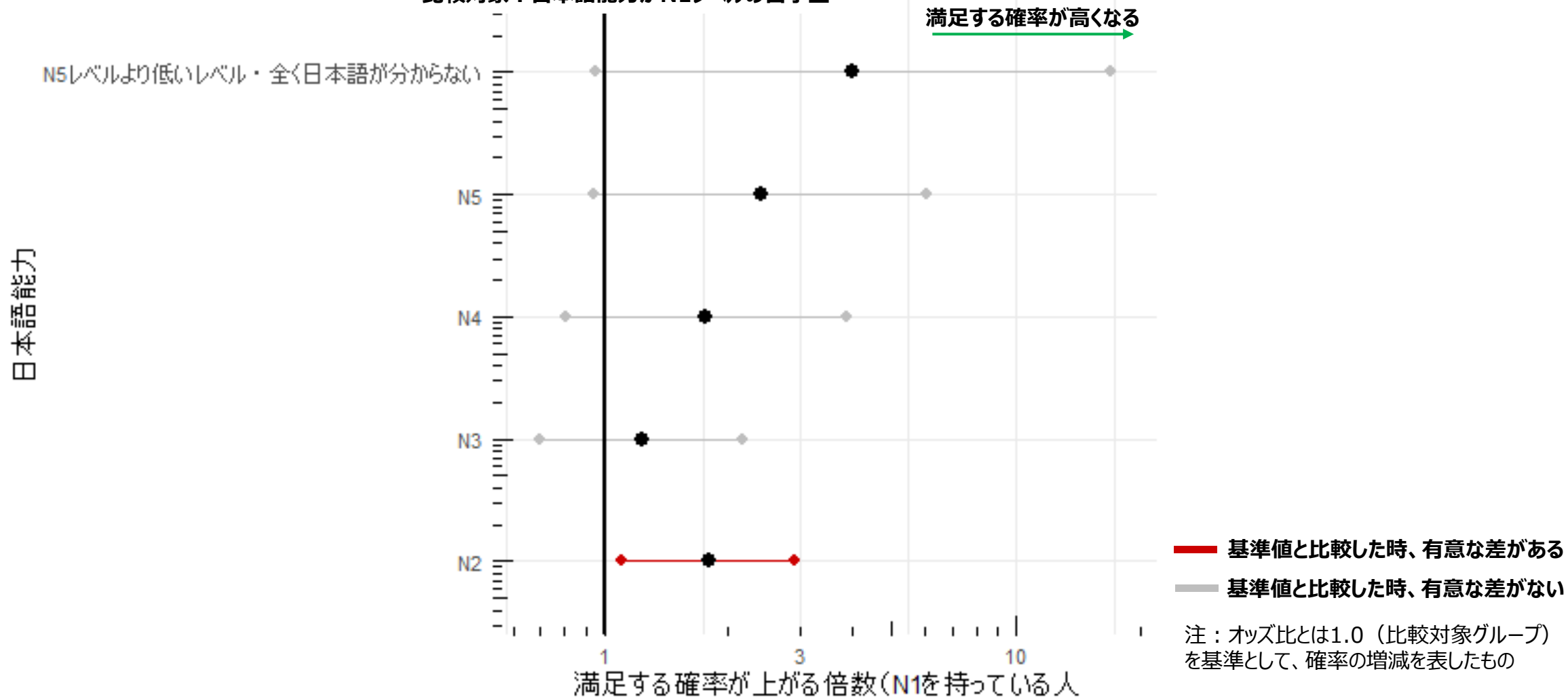
日本語能力が「N2レベル」の人はN1レベルの人に比べ、満足する傾向が高くなる

1.79

Q. あなたの日本語能力はどのレベルですか

N2レベルの日本語である人はN1レベルの人に比べ満足する傾向が高い傾向がある

比較対象：日本語能力がN1レベルの留学生



Q. 年齢を教えてください

満足度に関して、年齢の違いとは有意な結果なし

Q. 性別は何ですか

満足度に関して、性別とは有意な結果なし

Q. 通っている学校の種類は何ですか

満足度に関して、**学校種とは有意な結果なし**

進路予定・つもり

Q. 現在通っている学校を卒業すると、次に何をするつもり/予定ですか

満足度に関して、進路予定・つもりとは有意な結果なし

レビュー：留学生の満足向上に向けた推奨アクション — まと

分析の結果、下記の取り組みを強化すれば、留学生の満足度向上に貢献できると考えられる。

強調すべき取り組み

奨学金

- 奨学金がもらえる機会の増加・紹介。

イベント

- 留学生向けのイベントの増加。
- 地元の人と接せるイベントの作成。

生活支援

- 留学生向けの生活支援をさらに充実させ、それらを十分に留学生に知ってもらう。
- 留学生の成長及び自立につながるような支援を提供する。

優先すべき課題解決

経済的な問題

- 経済的な問題に関する金銭的な支援や精神的な支援策などを検討し、可能な限り留学生の経済的な悩みを和らげる対策を作成。

住居問題

※ヒント程度

- 住居のことの中で特に何が課題なのかを把握した後、適切な解決方法を政策。

その他

ネパール市場

- ネパール人留学生による低い満足度についてさらに調べ、その原因を解決できる施策を立案。



ホームシックのことで悩んでいるネパール人留学生の方が満足する傾向が低くなるため、これを優先的に対応すべき。また、留学生のイベントが多いから良いと思うネパール人が満足する傾向が高くなるので、留学生のためのイベントを積極的にネパール人留学生に参加してもらおうと良い。

東アジア・欧米豪・中国

- 上記の市場の高い満足度結果について調べ、他の市場でも享受できることがあれば、新しい施策を立案したり、拡大したりする。

留学した後の 日本での滞在促進

分析目的

分析で知りたいこと:

卒業後、日本で進学・就職するつもり留学生の特徴を知り、日本に残りたいことに良い影響及び悪い影響を及ぼしている項目を特定する。



分析の活躍方法:

- 日本に残りたい気持ちを持つことに良い影響を及ぼしている要因を強化できる対策を作成。
- 日本に残りたい気持ちを持つことに阻んでいる課題を知った上で、それらの影響を緩和する対策を作成。

分析方法：ロジスティック回帰分析

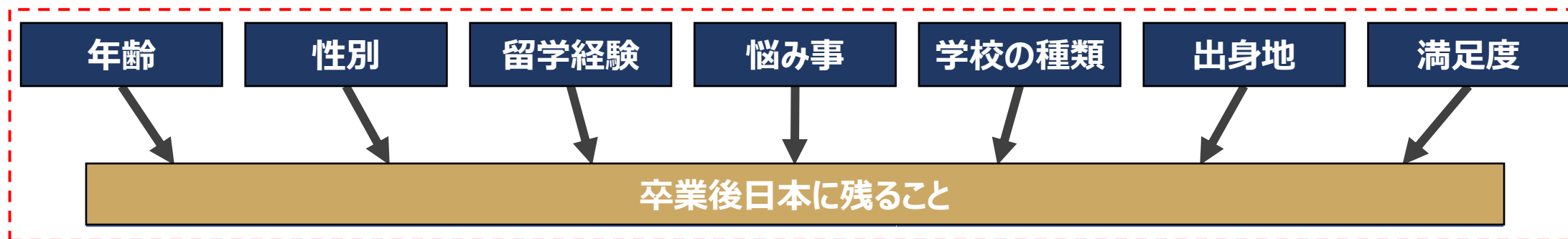
例：

知りたいこと：どのような人は日本に残るつもりである傾向が高いのか



「日本に残るつもりである人」と「日本に残るつもりではない人」を比較し、
どの項目が「卒業後日本に残るつもりであること」に影響を及ぼしているかを検証する

例：



有意に影響があると考えて良い項目を特定し、影響の程度を**オッズ比**で示す

解釈

例：

○ 学校が「専門学校」の方は「大学」の方に比べ、日本に残るつもりである傾向が 高くなる	3.13	→ 「確率が3.13倍上がる」
○ 学校が「日本語学校」の方は「大学」の方に比べ、日本に残るつもりである傾向が 高くなる	3.80	→ 「確率が3.80倍上がる」

レビュー：参考資料：オッズ比（Odds Ratio）について

オッズ比とはあることの状態が変わることにより、あること（例えば：「〇〇商品を購入する、〇〇病気になる」）が起きる確率がどれほど変わるか（増えるか・減るか）ということを示しているものです。

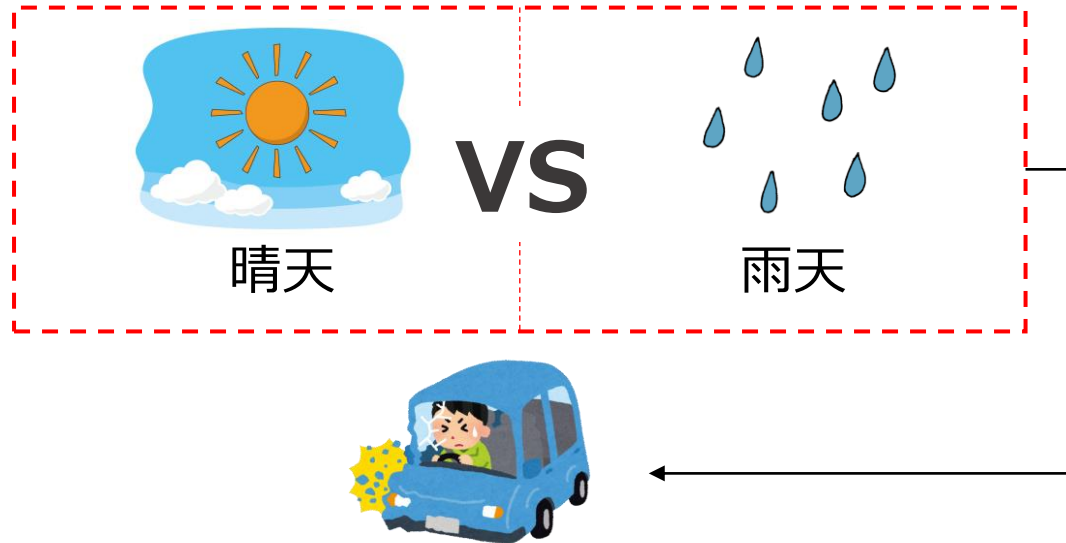
例えば：「晴天の日に比べ、雨天の日であることにより交通事故が起きる確率がどれほど変わるか」を検証する時などに使えます。

晴天の日及び雨天の日の交通データを集め、晴天の日を比較対象として分析します。

分析した結果、2.0のオッズ比が結果として出た場合、雨天の日は晴天の日に比べ、交通事故が起きる確率・可能性が2倍増えるという意味になります。0.5という結果が出た場合、逆に交通事故が起きる確率が半分になるという意味となります。1.0という結果が出た場合、交通事故が起きる確率が変わらないという意味になります。

例：天気による交通事故への影響

知りたいこと



ロジスティック回帰分析



晴天の日に比べ、雨天の日であることにより交通事故が起きる確率がどれほど変わるかを検証。

分析結果（オッズ比）

2.0

解釈： 「雨天の日」は「晴天の日」に比べ、交通事故が起きる確率が2倍高くなる。

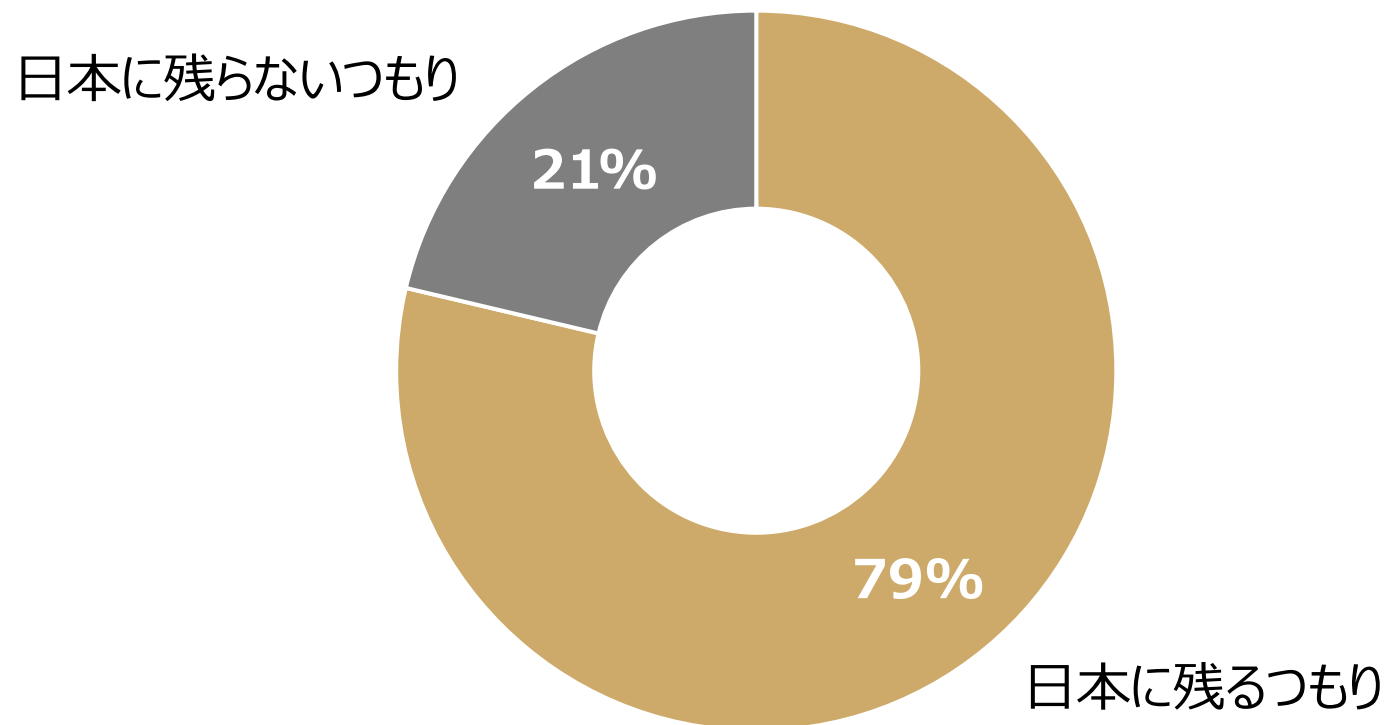
【注】：上記のオッズ比は例だけ

大阪観光局で行っているデータ分析も同様です。あることの状態が変わることにより（例えば性別・年齢）、〇〇市町村や〇〇施設への訪問がどれほど変わるのかというような分析し、訪問する可能性の高い人を明確にしています。

進路 ー 日本に残るつもりである留学生の割合

Q. 現在通っている学校を卒業すると、次に何をするつもり/予定ですか

回答者の**79%**は卒業後でも日本に残るつもり



日本に残りたい気持ち促進に向けたアクション

Q. 現在通っている学校を卒業すると、次に何をするつもり/予定ですか

卒業後日本に残る人の増加に向けて

学校の種類

日本語学校・専門学校生を優先すべき

- 専門学校や日本語学校に通っている人は特に卒業後日本に残るつもりがあるため、職場やその他教育機関に関してとても大切な人材の源だと捉えると良い。そのため、誘致活動について、こういった学校への誘致を優先すれば良いかもしれない。また、上記のような教育機関に通っている人の進路活動の支援を優先事項として考えた方が良い。

滞在期間 ・ 年齢

進路についての情報を提供するタイミング

- 25歳である留学生は特に日本に残りたい傾向があると見えている。また、日本に留学してから2年間～3年間未満が経つ人も特に残りたい傾向がある。そのため、このような時期とその直前の時期を過ぎている人に優先的に進路に関する情報や支援を提供すれば良いかもしれない。

大阪に住んで良かったこと

留学生のためのイベントの増加

- 留学生のためのイベントが多いから大阪に住んで良かったと思うの方が卒業後も日本に残るつもりである傾向があるので、留学生が求めているようなイベントを知った上で、イベントを計画すれば良い。
- 継続的に外国人留学生エキスポ、留学生ウィーク、またOGSAN向けのイベントを実施することが大切だと考えられる。

日本語能力

日本語能力の向上が大切

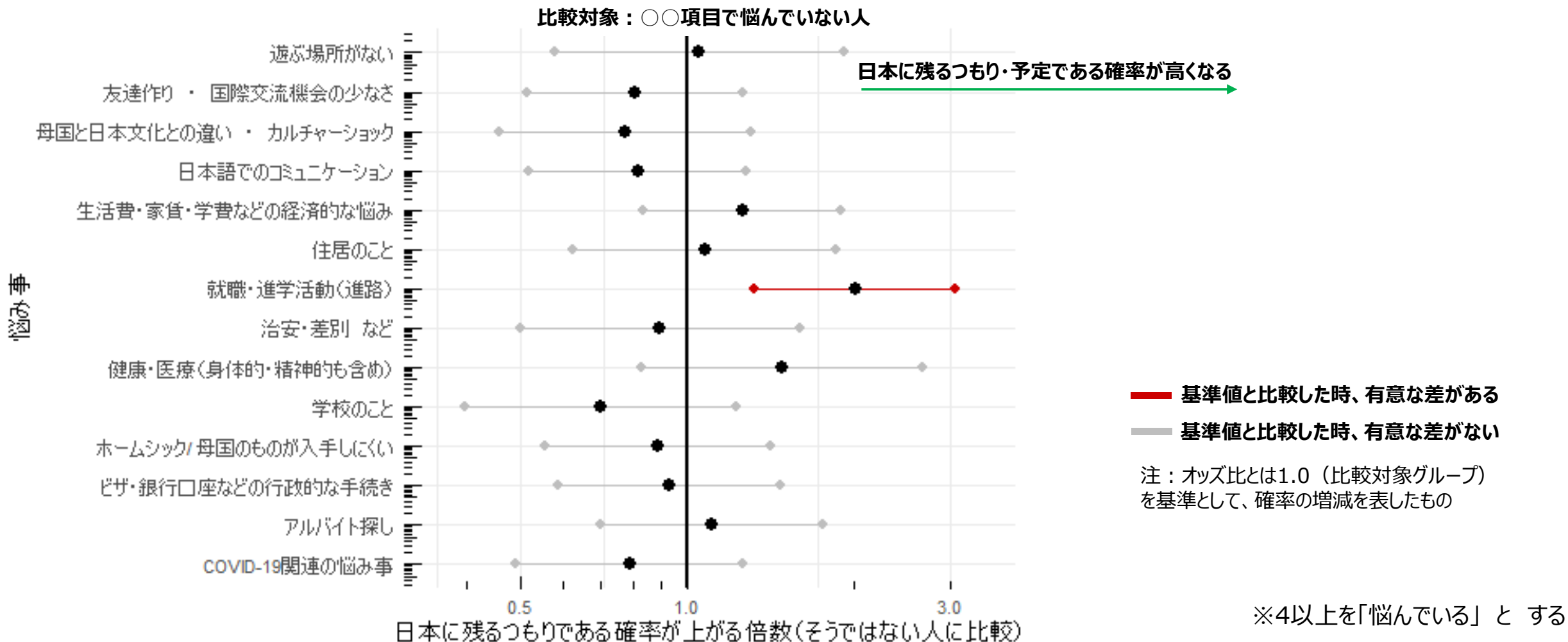
- 日本語能力がほとんどない人は日本に残るつもりがある傾向が非常に低いので、卒業後日本に残ってもらうことが最終目標なら日本語がほとんどできない人を特に誘致しようとするターゲットから省いた方が良いかもしれない。
- あまり日本語ができない人達の日本語能力向上に貢献するような対策を実施すると、日本に残るつもりである人の増加につながると考えられる。とにかく、日本語能力と日本に残るつもりがあることとはとても関係がある。

留学生の悩み事

留学生の悩み事

Q. 次のテーマで悩んでいる度合いを選んでください (とても悩んでいる = 5、とても悩んでいない = 1)

就職・進学活動で悩んでいる人の方が卒業後日本に残るつもり



「就職・進学活動（進路）」で悩んでいる人はそうではない人に比べ、卒業後日本に残るつもりである傾向が高くなる

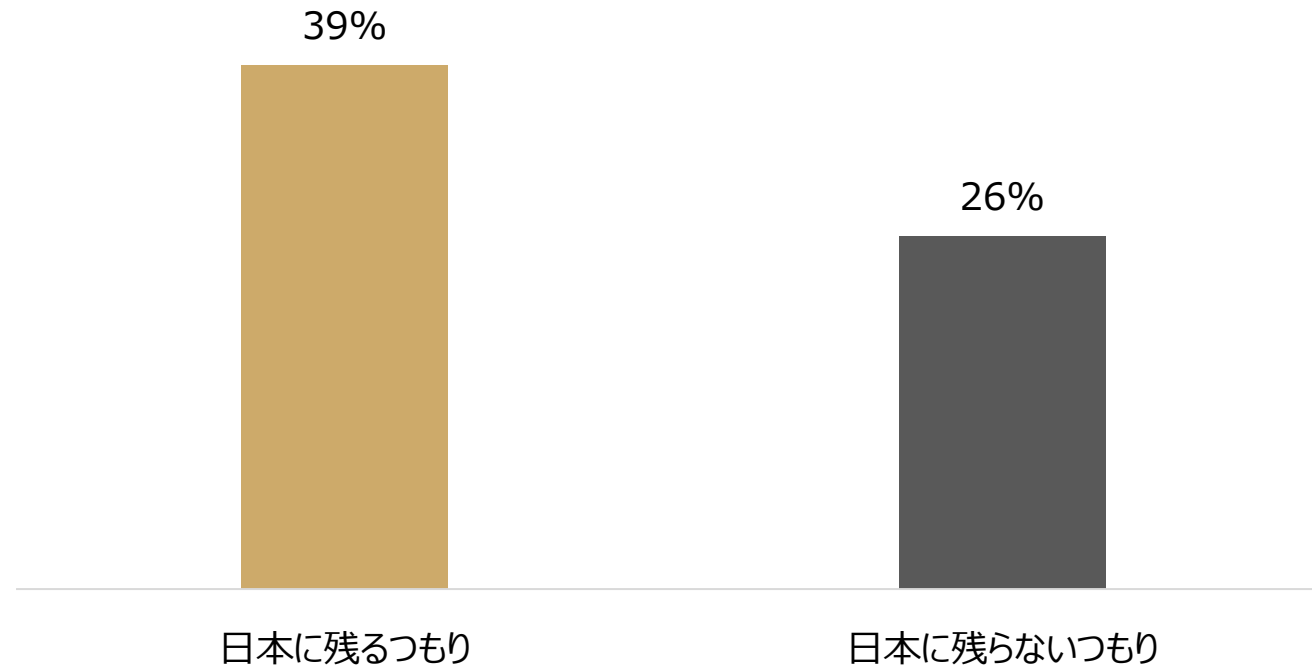
2.19

留学生の悩み事

Q. 次のテーマで悩んでいる割合を選んでください (とても悩んでいる = 5、とても悩んでいない = 1)

卒業後**日本に残るつもりである人**の方が進路で悩む傾向が高い

就職・進学（進路）で悩む割合（%）



※4以上を「悩んでいる」とする

留学生の悩み事

Q.次のテーマで悩んでいる度合いを選んでください（とても悩んでいる = 5、とても悩んでいない = 1）

実用的な考察

進路をしたい人を増加



悩むことが必ずしも悪いことというわけではない。当たり前ではあるが、日本で進路を目指していない人であれば、進路で悩まないで、とにかくできるだけ多くの留学生に**日本での進路を目指したいという気持ちを持ってもらえるようにしなければならない**。次に、留学生が具体的に何で悩んでいるのかを知り、留学生が進路で悩む程度及び不安を緩和するための支援を提供し、できるだけスムーズに就職できるようにサポートすれば良い。

参考：留学生が就職活動で悩んでいること

	苦労したこと	回答者数	割合
1	面接方法	179	55%
2	日本語	170	52%
3	適正検査	133	41%
4	エントリーシートのやり方	121	37%
5	就職試験	110	34%
6	その他	13	4%

出典：留学生の現状調査2022年の結果

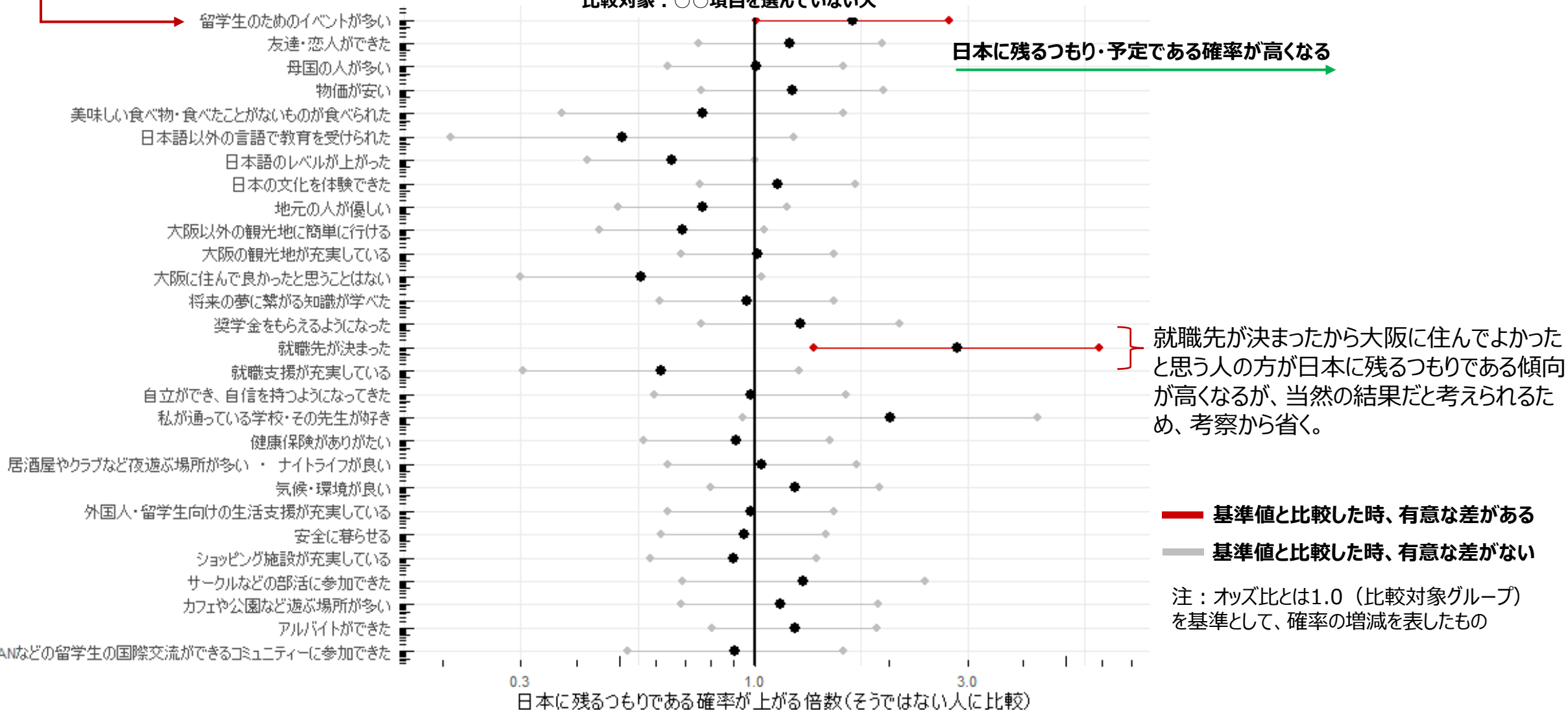
大阪に住んでよかったこと

日本に住んでよかったこと

Q.大阪に住んでよかったと思うことは何ですか（該当なものをすべて選んでください）

留学生のためのイベントが多いから、大阪に住んで良かったと思う人の方が日本に残りたいと考えている。

比較対象：○○項目を選んでいない人



日本に住んでよかったこと

Q.大阪に住んでよかったと思うことは何ですか（該当なものをすべて選んでください）

留学生のためのイベントが多いから、大阪に住んで良かったと思う人の方が日本に残りたい傾向がある。

「就職先が決まった」から大阪に住んでよかったと思う人はそうではない人に比べ、卒業後日本に残るつもりである傾向が高くなる	2.75
「留学生のためのイベントが多い」から大阪に住んでよかったと思う人はそうではない人に比べ、卒業後日本に残るつもりである傾向が高くなる	1.66

日本に住んでよかったこと

Q.大阪に住んでよかったと思うことは何ですか（該当なものをすべて選んでください）

実用的な考察

留学生のためのイベントを増加



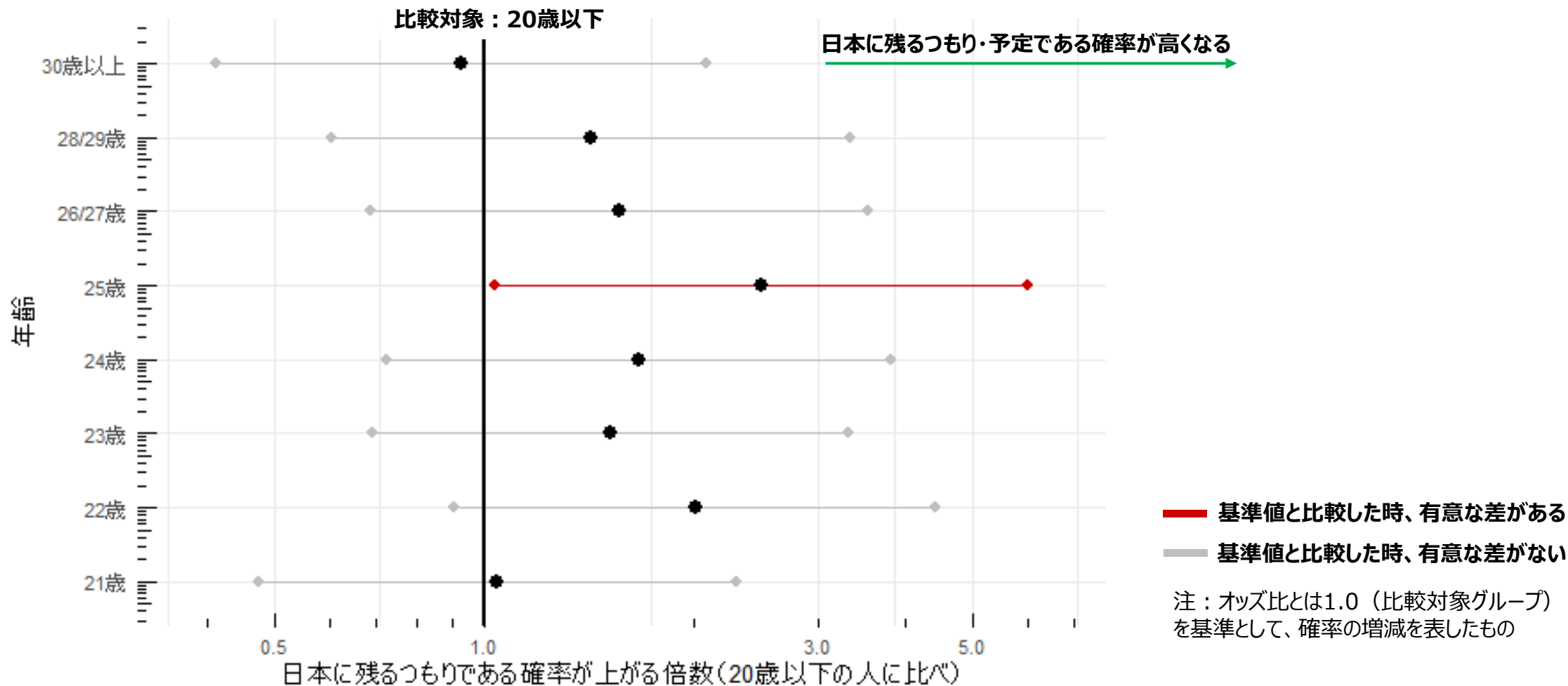
留学生のためのイベントが多いから大阪に住んで良かったと思う人の方が卒業後も日本に残るつもりである傾向があるので、留学生が求めているようなイベントを知った上で、イベントを計画すれば良い。継続的に外国人留学生エキスポ、留学生ウィーク、またOGSAN（留学生のアンバサダーネットワーク）向けのイベントを実施することが大切だと考えられる。

注意：特にどのようなイベントが多いから大阪に住んで良かったということは現時点では把握できていないので、特にどのようなイベントを優先的に増加すべきか判断できない。

年齢

Q. 年齢を教えてください

アンケート回答期間中**25歳**である人は特に日本に残るつもりである傾向がある

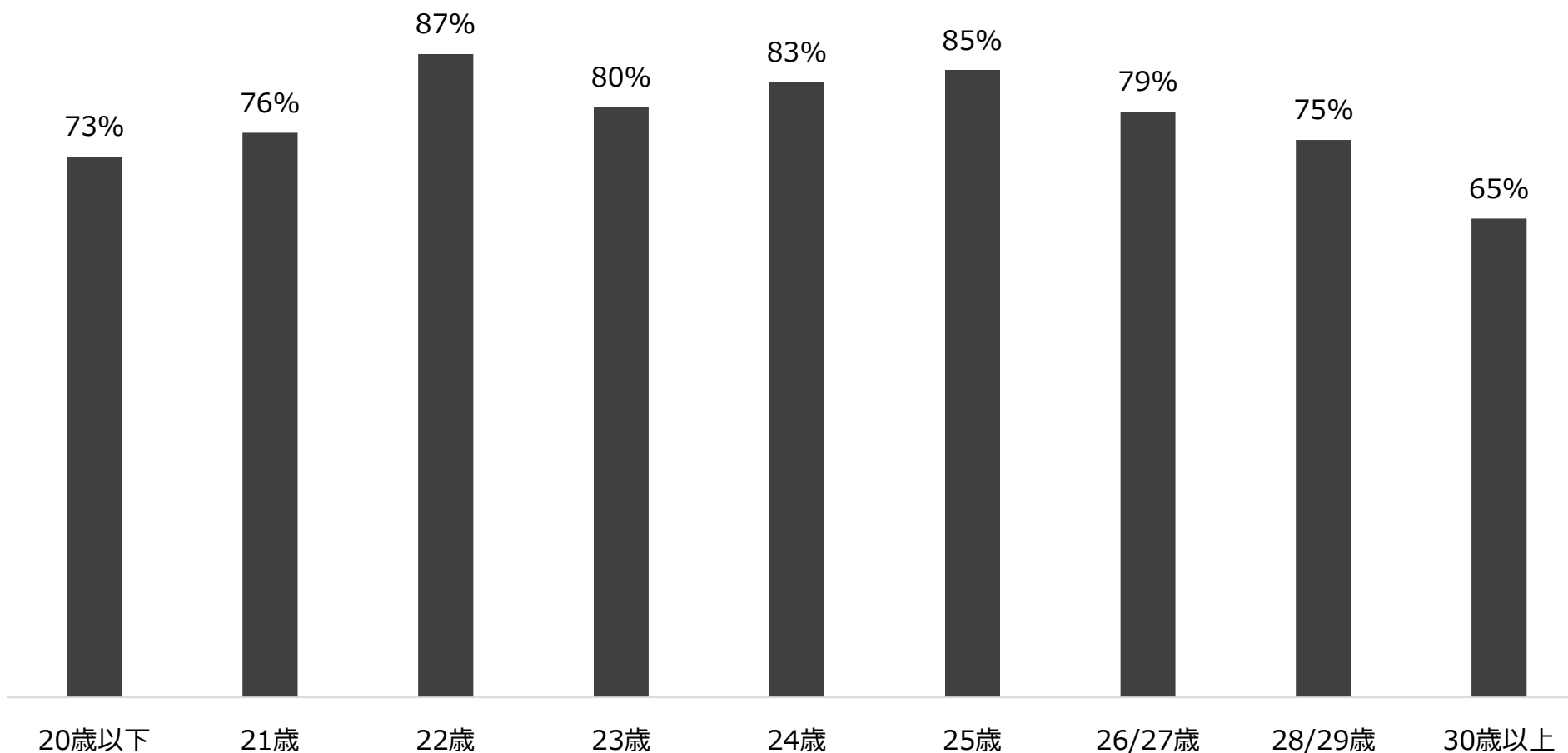


「25歳」である人は20歳以下のの人に比べ、卒業後日本に残るつもりである傾向が高くなる

2.48

Q. 年齢を教えてください

アンケート期間中の**25歳**である人は特に日本に残るつもりである傾向が高い



Q. 年齢を教えてください

実用的な考察

25歳前後の人に優先的に情報を提供



- 25歳である留学生は特に日本に残りたい傾向があると見えている。また、日本に留学してから2年間～3年間未満が経つ人も特に残りたい傾向がある。そのため、このような時期とその直前の時期を過ぎている人に優先的に大学・大学院への進路の機会や仕事の機会など、進路に関する情報や支援を提供すれば良いかもしれない。こういった情報を提供する方法としては、様々な戦術があると考えられるが、留学生のアンバサダーネットワークに登録している人に直接に連絡すること以外にも、留学生向けの説明会などのイベントを開催することが良いかもしれない。

学校の種類

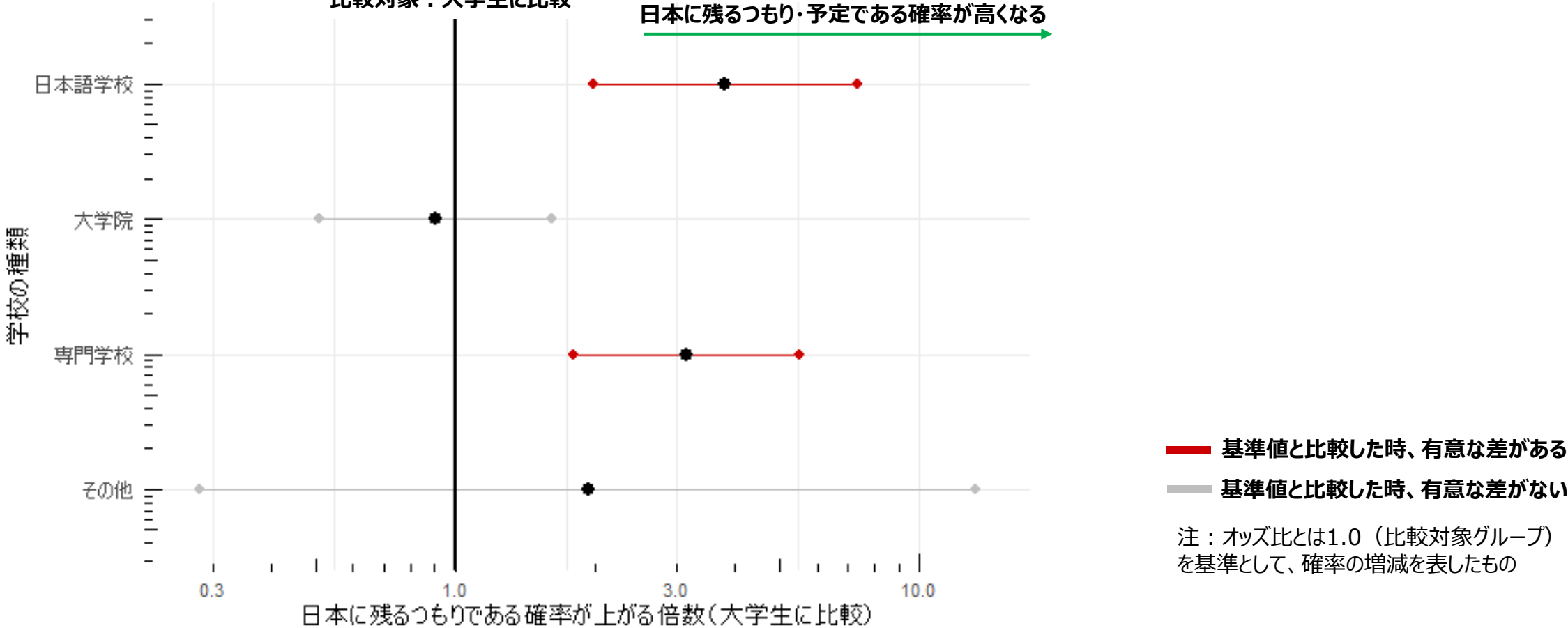
学校の種類

Q. 通っている学校の種類は何ですか

専門学校生及び**日本語学校生**が卒業後に日本に残るつもりである傾向が高い

比較対象：大学生に比較

日本に残るつもり・予定である確率が高くなる



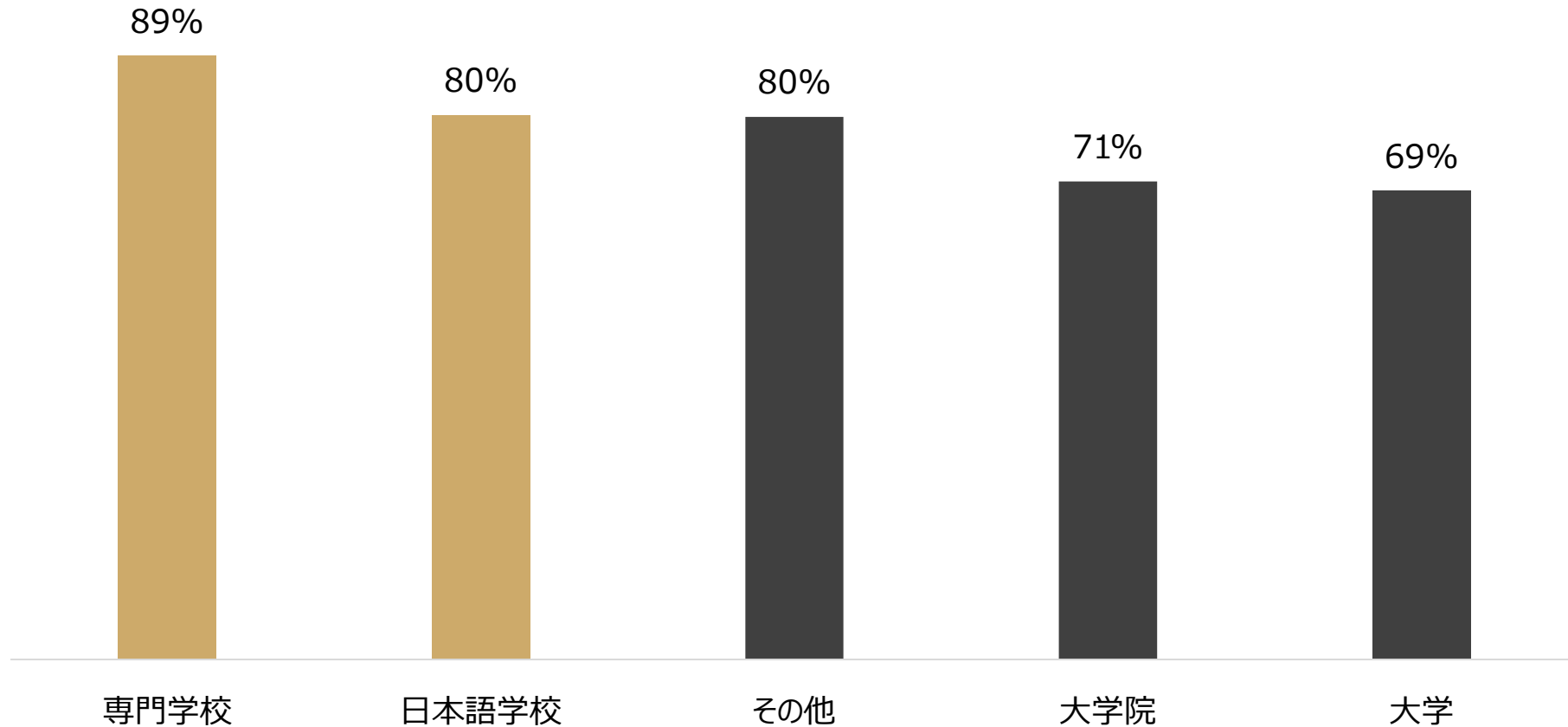
「日本語学校生」である人は大学生である人に比べ、卒業後日本に残るつもりである傾向が高くなる	3.80
「専門学校生」である人は大学生である人に比べ、卒業後日本に残るつもりである傾向が高くなる	3.13

注：学校の種類を考慮しているが、サンプルサイズのため学校別の結果を考慮していないため、学校によって差があっても今回の結果にはその影響が把握できていない。

学校の種類

Q. 通っている学校の種類は何ですか

専門学校生及び**日本語学校生**が卒業後に日本に残るつもりである傾向が高い
日本に残るつもりがある割合（%）



Q. 通っている学校の種類は何ですか

実用的な考察

専門学校生・日本語学校生を優先的に誘致

専門学校や日本語学校に通っている人は特に卒業後日本に残るつもりがあるため、職場やその他教育機関に関してとても大切な人材の源だと捉えると良い。そのため、誘致活動について、こういった学校への誘致を優先すれば良いかもしれない。

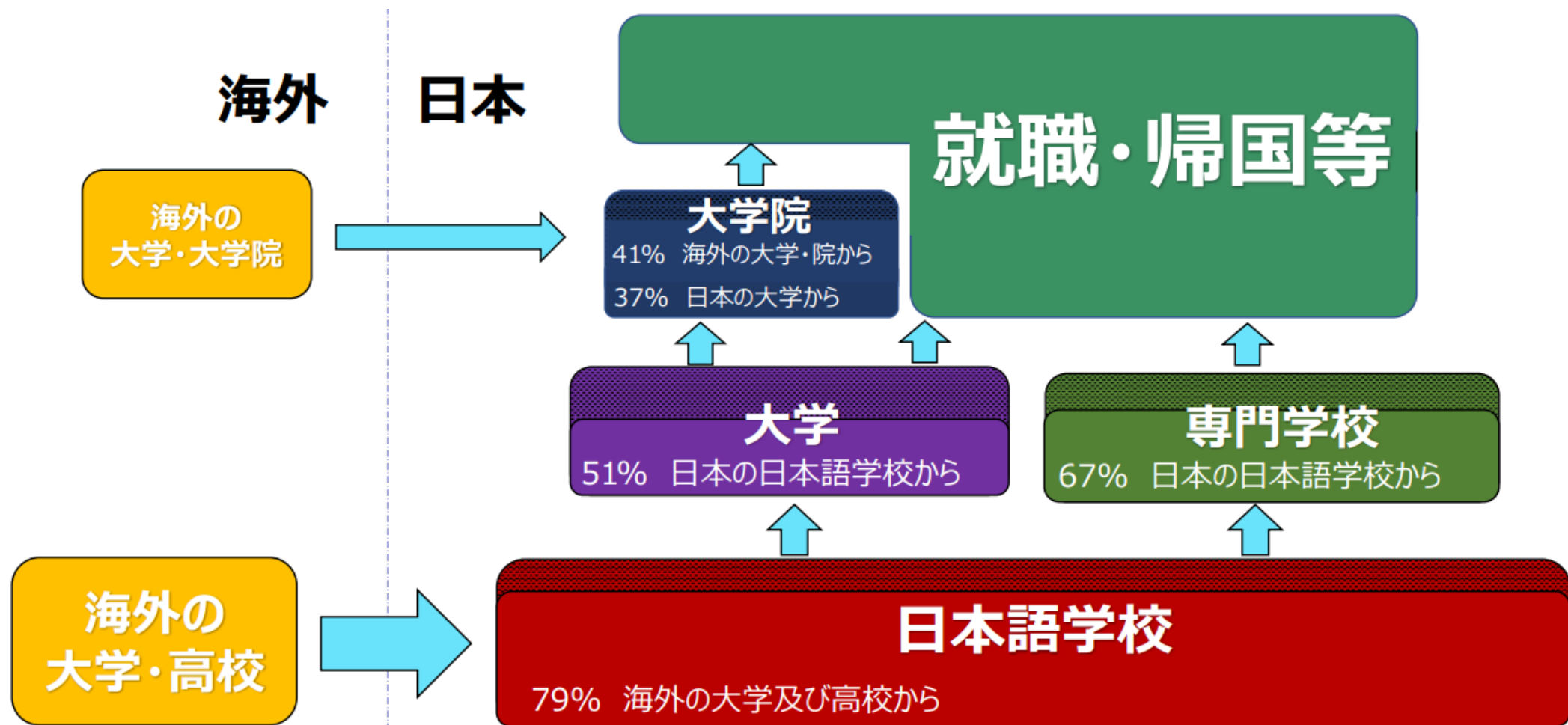


専門学校生・日本語学校生に対する支援を強化

上記の理由も踏まえ、専門学校生・日本語学校生向けの進路活動の支援を優先事項として考えた方が良い。

付属：留学生が日本に来る経由（よくあるパターン）

日本語学校が特に大阪の留学のファウンデーションだと考えられる



- ・ 一番よくある留学パターン：海外の大学・高校⇒日本の日本語学校⇒大学または専門学校⇒大学院または就職
- ・ 日本の日本語学校は大阪の留学のファウンデーションとなっている。

25

出典：留学生の現状調査2021年の結果

日本語能力

日本語能力

Q. あなたの日本語能力はどのレベルですか

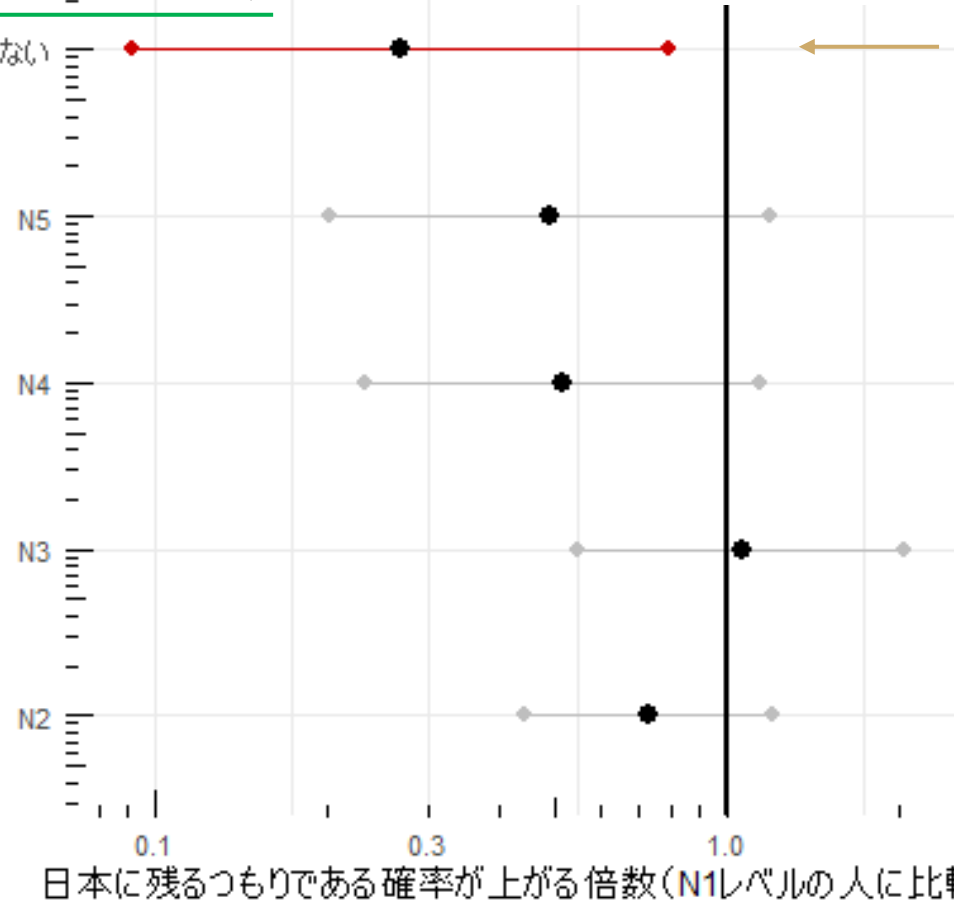
日本語がほぼできない人は日本に残るつもりである傾向がとて低くなる

日本に残るつもり・予定である確率が低くなる

比較対象：N1レベルの人

N5レベルより低いレベル・全く日本語が分からない

日本語がほぼできない人なら、N1の人に比べ、卒業後日本に残るつもりである確率が約74%ほど低くなる。



— 基準値と比較した時、有意な差がある

— 基準値と比較した時、有意な差がない

注：オッズ比とは1.0（比較対象グループ）を基準として、確率の増減を表したもの

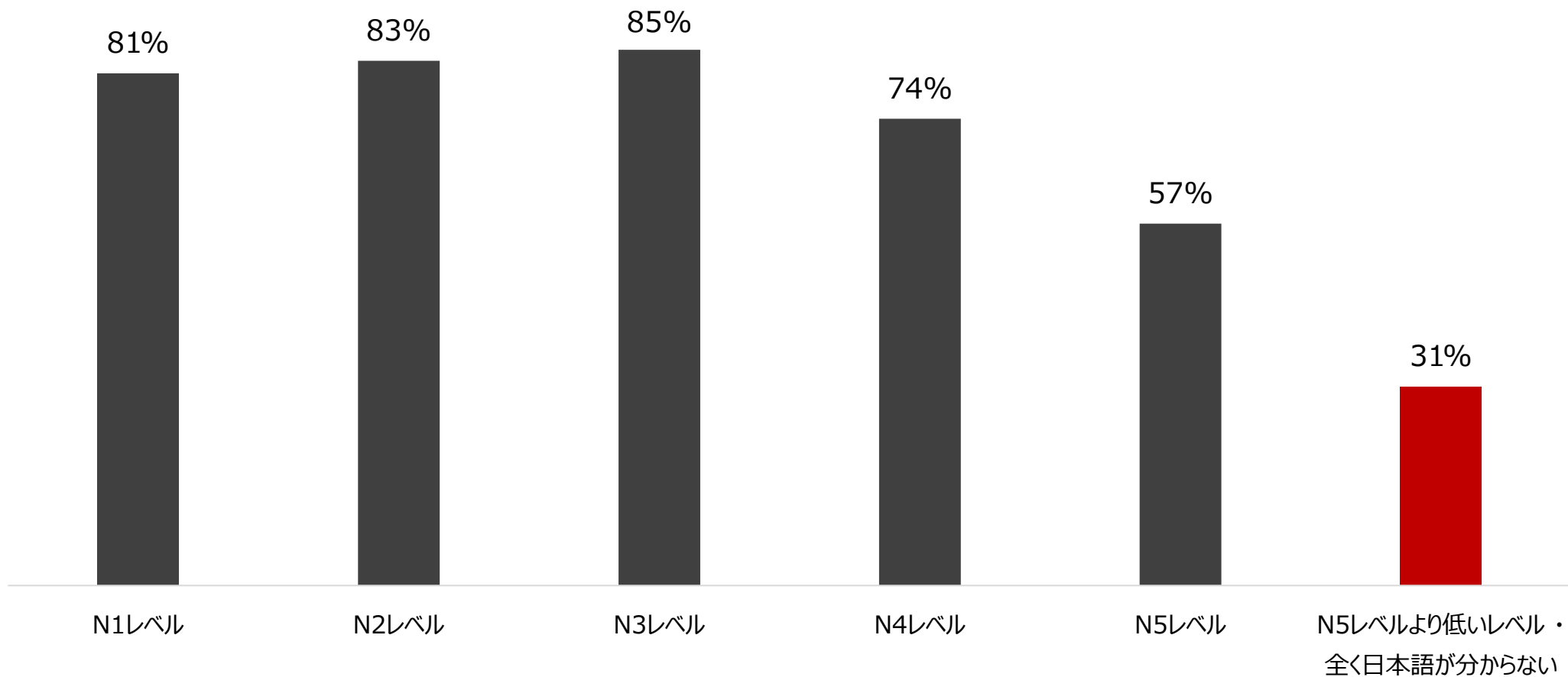
日本語能力が「N5レベルより低いレベル、または 全く日本語が分からない」人はN1レベルである人に比べ、卒業後日本に残るつもりである傾向が低くなる

0.26

Q. あなたの日本語能力はどのレベルですか

日本語がほぼできない人は日本に残るつもりである傾向が非常に低い

日本に残るつもりがある割合（％）



Q. あなたの日本語能力はどのレベルですか

実用的な考察

日本語があまりできない人を優先的に誘致しない選択肢を検討

- 日本語能力がほとんどない人は日本に残るつもりがある傾向が非常に低いので、卒業後日本に残ってもらうことが最終目標なら日本語がほとんどできない人を誘致しようとするターゲットから省いた方が良いかもしれない。【注：最終的なゴールは日本に長く滞在してもらうことであれば】。



※日本にある教育機関や経済及び社会には、短期滞在者でも大切な人であり、優れた留学期間を過ごしてもらえば、日本のことを推薦したり、観光客としてもリピーターになったり、将来日本の企業との連携を検討することに繋がると考えられている。

日本語能力向上に向けた支援策を作成

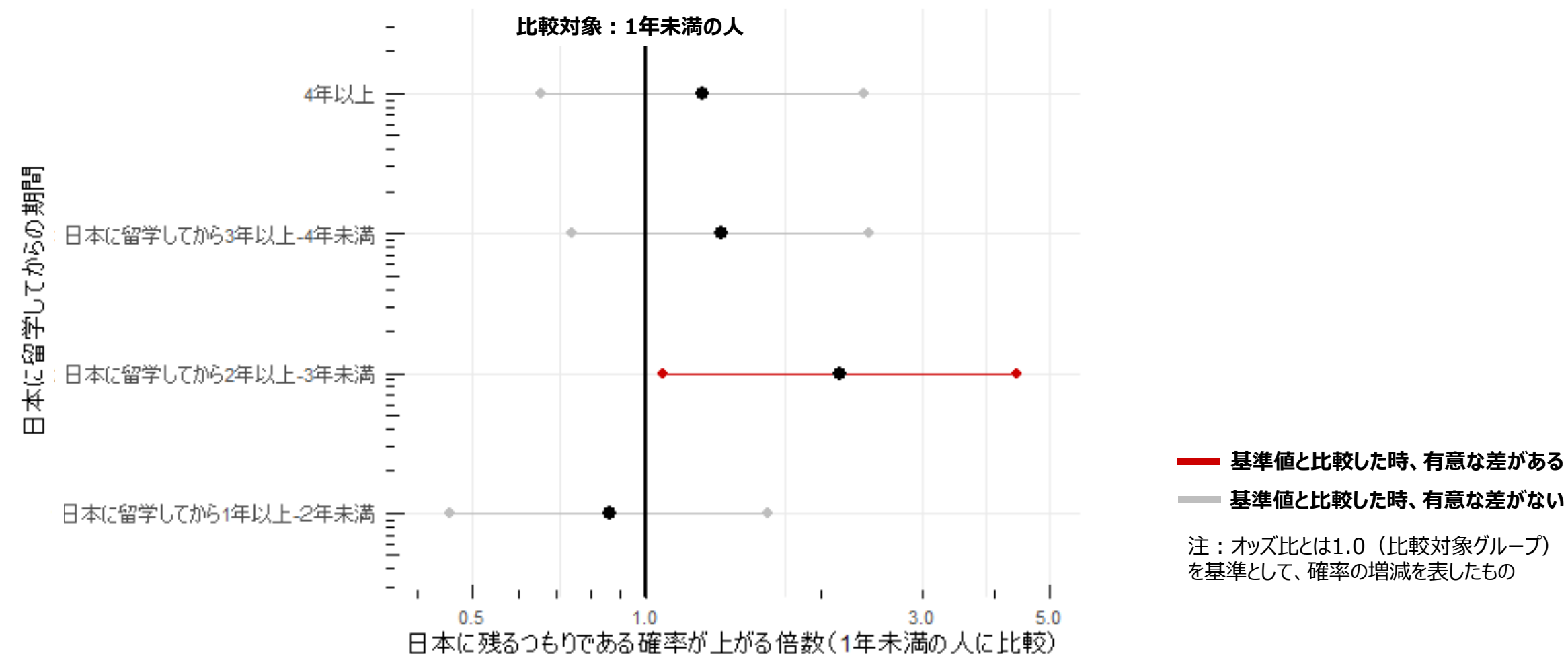
- 日本語能力と日本に残るつもりがあることとはとても関係がある。あまり日本語ができない人達の日本語能力向上に貢献するような対策を実施すると、日本に残るつもりである人の増加につながると考えられる。

日本での滞在期間

日本での滞在期間

Q. 日本に留学し始めた年を教えてください

日本に留学し始めてから2年～3年未満経つ人は卒業後に日本に残るつもりである傾向が高い



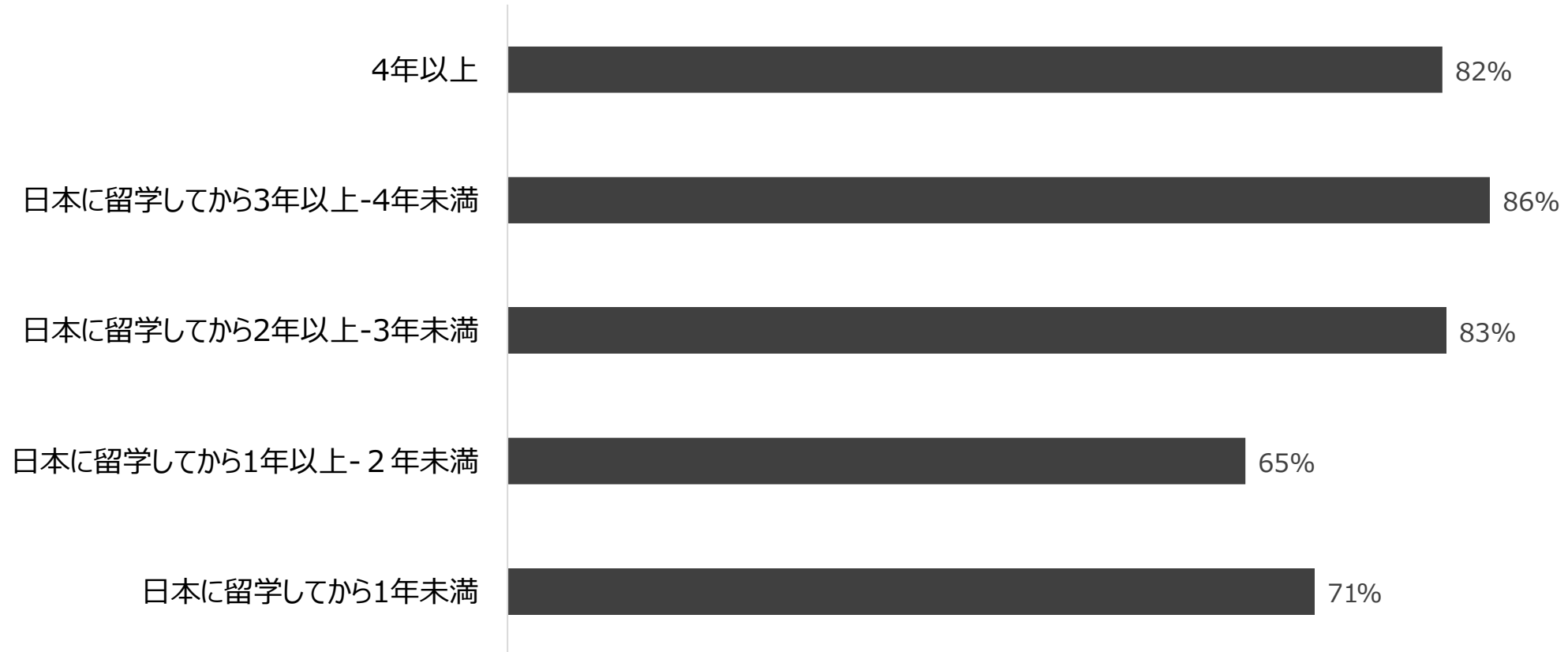
日本に留学してから「2年間～3年未満」経つ人は1年未満である人に比べ、卒業後日本に残るつもりである傾向が高くなる

2.16

日本での滞在期間

Q. 日本に留学し始めた年を教えてください

日本に残るつもりがある割合（%）（滞在期間別）



Q. 日本に留学し始めた年を教えてください

実用的な考察

日本に留学してから2年間～3年間未満が経つ人に優先的に情報を提供



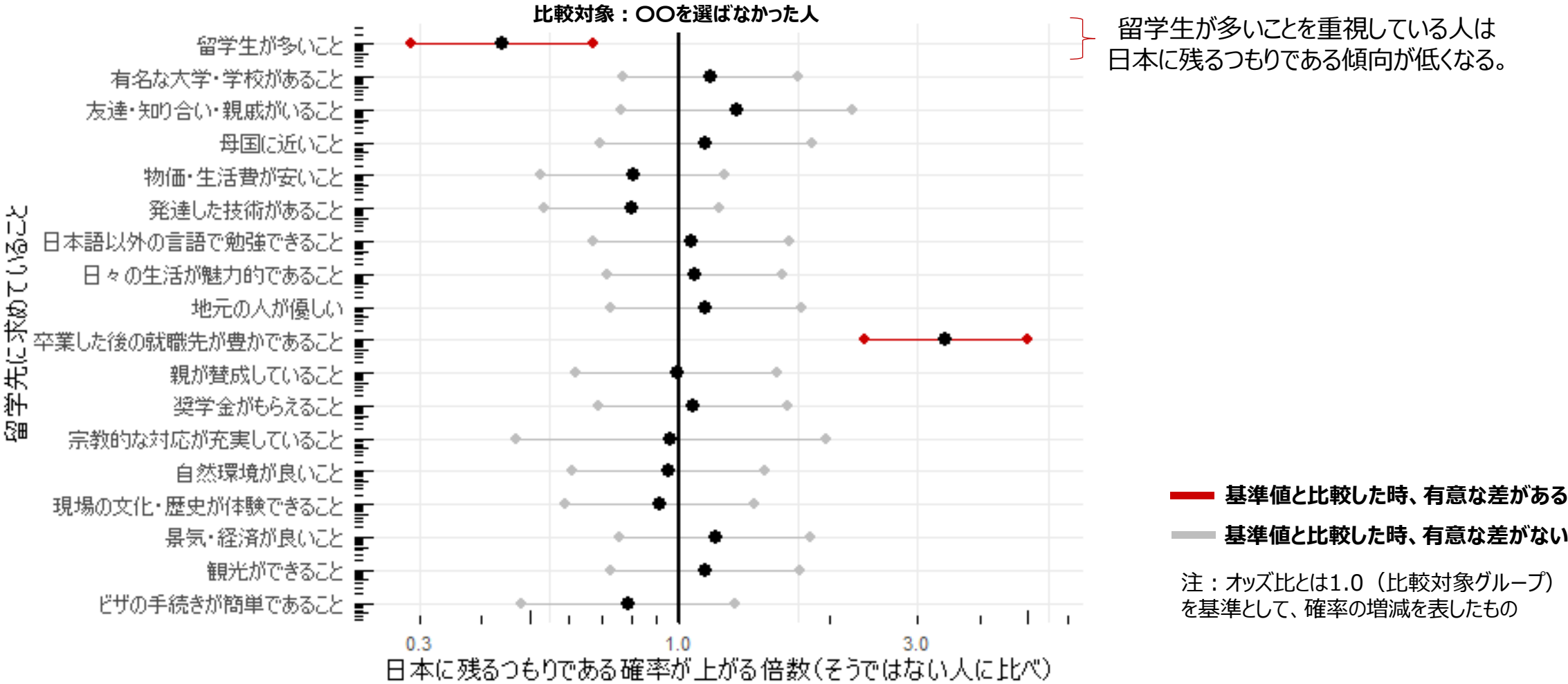
- 日本に留学してから2年間～3年間未満が経つ人は卒業後でも日本に残るつもりである傾向がある。そのため、このような時期とその直前の人に優先的に進路に関する情報や支援を提供すればさらなる日本での進路に繋がると考えられる。

留学先に求めていること

留学先に求めていること

Q. 留学先を選ぶ際、特に重要だと思う項目を選んでください（該当なものをすべて選んでください）

卒業後の就職先が豊富であることを優先している人は卒業後に日本に残るつもりである傾向が高い



留学先を選ぶ際「卒業後の就職先が豊か」であることを重視するはそうではない人に比べ、卒業後日本に残るつもりである傾向が高くなる	3.25
留学先を選ぶ際「留学生が多いこと」であることを重視するはそうではない人に比べ、卒業後日本に残るつもりである傾向が低くなる	0.44

留学先に求めていること

Q. 留学先を選ぶ際、特に重要だと思う項目を選んでください（該当なものをすべて選んでください）

実用的な考察

留学生が多いなら留学したいと思うような人を優先的に誘致しない

- 留学先を選ぶ際、留学生が多いことを重視している人は卒業後日本に残るつもりがある傾向が低くなる。日本で長く滞在するような人を誘致することがもっとも優先順位の高い目標であれば、留学生が多いというようなニーズを持っている人（例：日本語ができない、日本人と接触したくないと思うような人など、日本社会に溶け込みにくいと考えられる人）を優先的に誘致しない方が良いと考えられる。



誘致活動で全体的な進路の道を見せてあげると良い

- 留学先に就職先が豊かであることを重んじている人の方が卒業後、日本に残るつもりである傾向が高くなる。そのため、留学生の誘致に向けた説明会などで、大阪・日本での卒業後のキャリアの機会の豊かさをアピールし、この留学先に行くと、就職活動が無事にできるという夢を持ってもらえるといい。
- 留学する前でも、日本で働いてみたいと思ってもらうことが大切で、日本で働きたいと思う人を優先的に誘致すれば良いと考えられる。

日本に残るつもりなのかどうかということに関して、
性別とは有意な結果なし

日本に残るつもりなのかどうかということに関して、
出身地域とは有意な結果なし

レビュー：日本に残りたい気持ち促進に向けたアクション

Q. 現在通っている学校を卒業すると、次に何をするつもり/予定ですか

卒業後日本に残る人の増加に向けて

学校の種類

日本語学校・専門学校生を優先すべき

- 専門学校や日本語学校に通っている人は特に卒業後日本に残るつもりがあるため、職場やその他教育機関に関してとても大切な人材の源だと捉えると良い。そのため、誘致活動について、こういった学校への誘致を優先すれば良いかもしれない。また、上記のような教育機関に通っている人の進路活動の支援を優先事項として考えた方が良い。

滞在期間 ・ 年齢

進路についての情報を提供するタイミング

- 25歳である留学生は特に日本に残りたい傾向があると見えている。また、日本に留学してから2年間～3年間未満が経つ人も特に残りたい傾向がある。そのため、このような時期とその直前の時期を過ぎている人に優先的に進路に関する情報や支援を提供すれば良いかもしれない。

大阪に住んで良かったこと

留学生のためのイベントの増加

- 留学生のためのイベントが多いから大阪に住んで良かったと思う人の方が卒業後でも日本に残るつもりである傾向があるので、留学生が求めているようなイベントを知った上で、イベントを計画すれば良い。
- 継続的に外国人留学生エキスポ、留学生ウィーク、またOGSAN向けのイベントを実施することが大切だと考えられる。

日本語能力

日本語能力の向上が大切

- 日本語能力がほとんどない人は日本に残るつもりがある傾向が非常に低いので、卒業後日本に残ってもらうことが最終目標なら日本語がほとんどできない人を特に誘致しようとするターゲットから省いた方が良いかもしれない。
- あまり日本語ができない人達の日本語能力向上に貢献するような対策を実施すると、日本に残るつもりである人の増加につながると考えられる。とにかく、日本語能力と日本に残るつもりがあることとはとても関係がある。

留学生の誘致に向けて 留学先を選ぶ際に重視すること

因子分析 & クラスター分析の結果

留学生の誘致に向けたアクション : まとめ

大阪の留学先としてのブランディング・情報発信戦略向上に向けて

情報発信戦略

カテゴリ別の定期的な情報発信

因子分析の結果、留学生が留学先を選ぶ際に重視している項目が下記の5つのテーマ・グループに分解できると分かった。

1. 留学先にある環境
2. 留学・生活・就職しやすさ
3. 日本語以外の言語のニーズ
4. 家族の配慮
5. 教育的な理由

そのため、ターゲット市場によってニーズが異なると考えられるが、基本的に上記のテーマを軸として見込み留学生向けの大阪の宣伝をすれば良い。

※4番について：留学生自身のみならず、多くの場合、それらの親戚を安心させる必要もあると考えられる。

ブランディング

高質の教育が受けられる留学先としてのブランドアップ

クラスター分析の結果、多くの留学生（約40%）は留学先の文化、環境、観光、エンターテインメントなどその留学先じゃないと体験できない項目ではなく、教育機関の質や卒業した後の就職先の豊かさを重視する人達である。

ほぼ60%は文化体験や観光地など上記のような大阪ではないといけない項目を重んじている人達だとしても、教育・将来のキャリアとの関連性を優先している留学生が多いため、この人達のニーズも考慮する必要がある。

教育機関の質をすぐにはワードクラスのレベルまで高くすることはハードルが多いかもしれないが、高い教育のレベルが享受できることや特に大阪の教育機関が先頭に立っているような分野があれば、その強みを中心に訴求すれば良く、広報活動などにより全体的なブランドのイメージ向上に力を入れた方が良いかもしれない。

因子分析

パート1：因子分析

分析で知りたいこと:

留学生が留学先を選ぶ時に重視している項目をグループにまとめる。



分析の活躍方法:

留学生が重んじている項目を管理しやすいグループにまとめることにより、新しい対策をより作りやすくする。

分析方法：因子分析

数多くの項目を管理しやすいグループにまとめる

因子分析とは、データにパターンを見つけるための分析方法の一つであり、変数の間の関係を検証した上で、多くの変数をもっと管理しやすいグループ（因子）にまとめることが目的である。

例： ①にある数多い項目を減らしたい場合、項目の間の関連性を検証し、因子分析を実施した上で②のようなグループにまとめることになる想定できる。

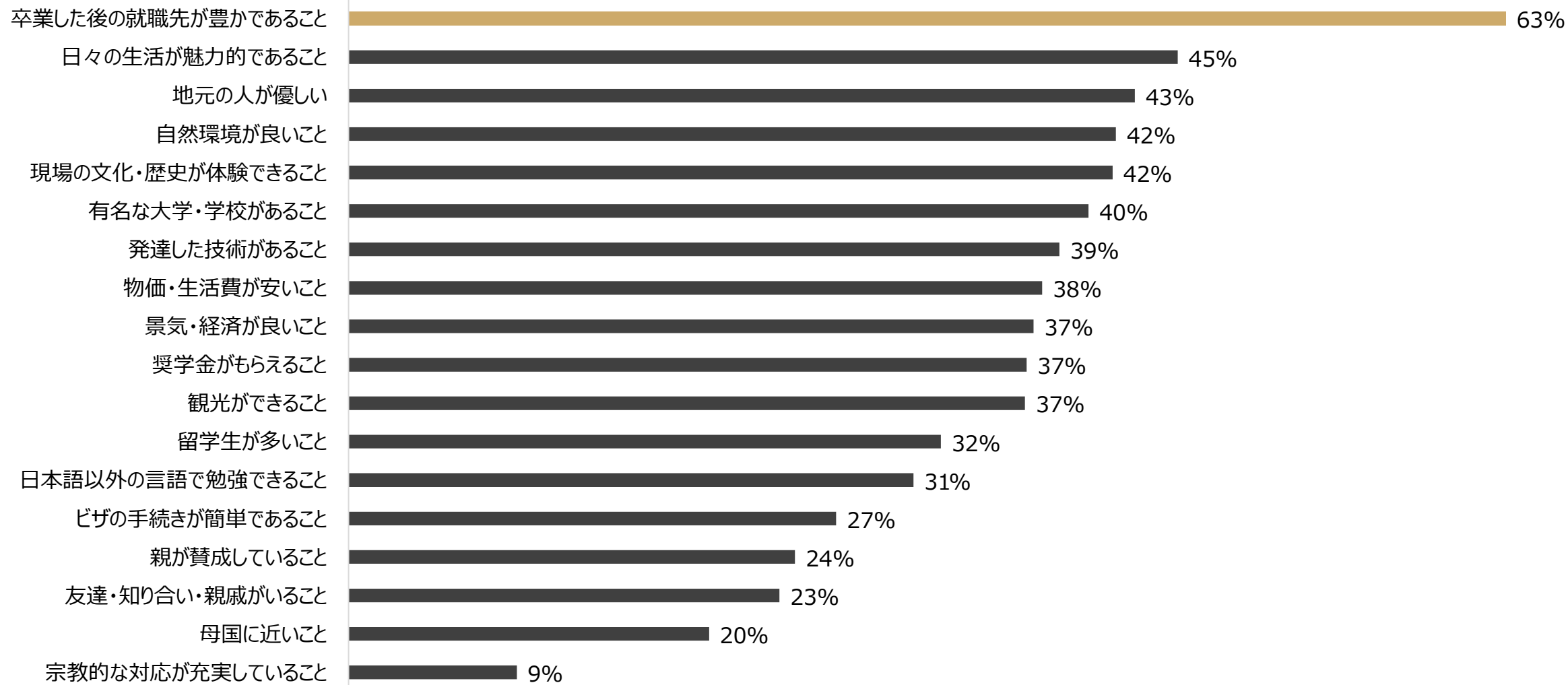


↑
多くの変数を関連性が高く、管理しやすい因子にまとめた結果

留学先を選ぶ理由

Q. 留学先を選ぶ際、特に重要だと思う項目を選んでください（該当なものをすべて選んでください）

No.1 重視事項は**就職先が豊かであること**



留学先を選ぶ理由 — 因子分析の結果

Q. 留学先を選ぶ際、特に重要だと思う項目を選んでください（該当なものをすべて選んでください）

因子分析の結果、留学先を選ぶ際に重視する理由は下記の因子（グループ）となった。

項目		因子1		
留学先にある環境	地元の人が優しい	0.72	大阪だから留学したい理由	因子2
	現場の文化・歴史が体験できること	0.70		
	自然環境が良いこと	0.69		
	観光ができること	0.54		
	景気・経済が良いこと	0.50		
	日々の生活が魅力的であること	0.46		
留学・生活・就職しやすさ	ビザの手続きが簡単であること	0.76	因子3	因子3
	物価・生活費が安いこと	0.50		
	卒業した後の就職先が豊かであること	0.45		
日本語以外の言語のニーズ	留学生が多いこと	0.58	因子4	因子4
	日本語以外の言語で勉強できること	0.58		
	友達・知り合い・親戚がいること	0.48		
家族の配慮	母国に近いこと	0.78	因子5	因子5
	親が賛成していること	0.48		
教育的な理由	有名な大学・学校があること	0.50		
	宗教的な対応が充実していること	0.47		
	奨学金がもらえること	0.44		
	発達した技術があること	0.44		

※スコアは各因子との関連性を示している。

留学先を選ぶ理由 — 因子分析の結果

Q. 留学先を選ぶ際、特に重要だと思う項目を選んでください（該当なものをすべて選んでください）

実用的な考察

見込み留学生に発信する情報の整理

- 留学生が留学先を選ぶ際に重視していることを主に5つのカテゴリーに分けることができる。留学生の誘致に向けた情報発信戦略として、見込み留学生向けの情報を下記の分野に当てはまる投稿という形で発信するような戦略を取れば良いかもしれない。（分野名を変更しても良い。また、市場によって、優先的に訴求した方が良いポイントが変わると考えられる）。



1. 留学先にある環境
2. 留学・生活・就職しやすさ
3. 日本語以外の言語のニーズ
4. 家族の配慮
5. 教育的な理由

クラスター分析

パート2：クラスター分析

分析で知りたいこと:

留学先を選ぶ時に重視していることに関する行動パターン及びペルソナを特定する。



分析の活躍方法:

留学先を選ぶ時に重視していることに関する行動パターンを知ることにより、ペルソナ別のニーズ及びそれらに対応すべき方法を検討可能とする。

分析方法： クラスター分析

行動パターンを分析し、似ている回答者をグループにまとめる

クラスター分析とは、データにパターンを見つけるための分析方法の一つであり、例えばアンケート調査の場合、回答者の行動・回答するパターンを検証した上で、似ている回答者をグループにまとめることを目的とする。

例： コンビニのお客さんの下記のカテゴリーに関する1年間の決済・購入データを分析して、

①	ベーカリー	お菓子	乳製品	燃料	お肉	宝くじ	光熱水費	お酒
---	-------	-----	-----	----	----	-----	------	----

決済・購入するパターンの近い人を下記のようなグループにまとめる。

② グループの例

例①	燃料しか買わない人
例②	お酒 & お菓子をよく購入するが、それ以外のものをほとんど買わない人
例③	コンビニで日用品をよく購入する人（ベーカリー、乳製品、お肉 等）

③ クラスター分析の結果で特定したグループをターゲットにするアクションを策定することが多い。

例： どのようなことをすれば基本的に宝くじしか購入しない人に他の興味ありそうな品物及ぼサービスを訴求し、もっと多くのお金を落としてもらえるのか。

留学先を選ぶ理由 — クラスター分析の結果 1

Q. 留学先を選ぶ際、特に重要だと思う項目を選んでください（該当なものをすべて選んでください）

留学先を選ぶ際に重視していることに関する回答にクラスター分析を実施した結果、**1つのクラスター(グループ)** が特定できた。

クラスター 1： キャリア・教育を優先している留学生



このクラスターに所属する人はすべての回答者の**39%**を占める。

所属者は留学先を決める時、当地にある文化・観光施設や地元の人々の人情ではなく、学校を卒業した後の**仕事の道**があるのか、**学校の質**がどうかといったところにこだわりがある。

留学生が多いことが重要なポイントなので、おそらく日本語以外の言語でコミュニケーションをするニーズがあるかもしれない。また、「**宗教的な対応**が充実していること」も重視する傾向があるので、特にイスラム教やヒンドゥー教が信仰されている国々から来た人が所属するクラスターだと考えられる。

特に重視するもの

- 卒業した後の就職先が豊富であること
- 有名な大学・学校があること
- 留学生が多いこと
- 宗教的な対応が充実していること

特に重視しないもの

- 自然環境が良いこと
- 地元の人優しい
- 現場の文化・歴史が体験できること
- 観光ができること
- 景気・経済が良いこと

留学先を選ぶ理由 — クラスター分析の結果 2

Q. 留学先を選ぶ際、特に重要だと思う項目を選んでください（該当なものをすべて選んでください）

クラスター 1： キャリア・教育を優先している留学生

悩みごと

クラスター所属者はそうではない人に比べ下記のことで悩む傾向が**高い**

- ・ ホームシック/ 母国のものが入手しにくい

住んで良かったこと

クラスター所属者は下記の「大阪に住んで良かった理由」を選ぶ傾向が**低い**

- | | |
|-----------------------------|------------------------------------|
| ・ 日本の文化を体験できた | ・ 大阪以外の観光地に簡単に行ける |
| ・ ショッピング施設が充実している | ・ 居酒屋やクラブなど夜遊ぶ場所が多い
/ ナイトライフが良い |
| ・ 外国人・留学生向けの生活支援
が充実している | ・ 将来の夢に繋がる知識が学べた |
| ・ アルバイトができた | ・ 母国の人が多い |
| ・ 安全に暮らせる | |

留学先を選ぶ理由 — クラスター分析の結果

Q. 留学先を選ぶ際、特に重要だと思う項目を選んでください（該当なものをすべて選んでください）

実用的な考察

クラスター別の対応方法を検討



今回のクラスター分析では一つのクラスターしか特定できなかったが、このクラスターは全回答者の約40%を占めていることが分かった。また、このクラスターの特徴としては、その国の文化や観光のオファーではなく学校の質やその後の仕事の機会が十分あるのかということを重視している傾向があると分かった。要するに、大阪に留学生してくれている人ではあるが、大阪ではなくても良く、その学校やその先生、求めているコースがあるかないかということで留学先を決定している人達だと考えて良い。

その結果、大阪の街としての質や環境のみならず、教育機関の質や魅力を高めながら、大阪が質の高い教育が享受できる留学先としての評判及び認知度向上にも力を入れる必要があると考えられ、質の高い教育が受けられる場所としてのブランディング及びストーリーを作ると良い。

レビュー：留学生の誘致に向けたアクション：まとめ

大阪の留学先としてのブランディング・情報発信戦略向上に向けて

情報発信戦略

カテゴリ別の定期的な情報発信

因子分析の結果、留学生が留学先を選ぶ際に重視している項目が下記の5つのテーマ・グループに分解できると分かった。

1. 留学先にある環境
2. 留学・生活・就職しやすさ
3. 日本語以外の言語のニーズ
4. 家族の配慮
5. 教育的な理由

そのため、ターゲット市場によってニーズが異なると考えられるが、基本的に上記のテーマを軸として見込み留学生向けの大阪の宣伝をすれば良い。

※4番について：留学生自身のみならず、多くの場合、それらの親戚を安心させる必要もあると考えられる。

ブランディング

高質の教育が受けられる留学先としてのブランドアップ

クラスター分析の結果、多くの留学生（約40%）は留学先の文化、環境、観光、エンターテインメントなどその留学先じゃないと体験できない項目ではなく、教育機関の質や卒業した後の就職先の豊かさを重視する人達である。

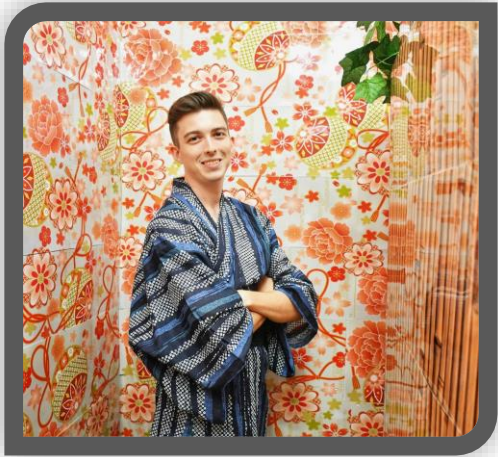
ほぼ60%は文化体験や観光地など上記のような大阪ではないといけない項目を重んじている人達だとしても、教育・将来のキャリアとの関連性を優先している留学生が多いため、この人達のニーズも考慮する必要がある。

教育機関の質をすぐにはワーククラスのレベルまで高くすることはハードルが多いかもしれないが、高い教育のレベルが享受できることや特に大阪の教育機関が先頭に立っているような分野があれば、その強みを中心に訴求すれば良く、広報活動などにより全体的なブランドのイメージ向上に力を入れた方が良いかもしれない。

分析担当について

ヒルズ ジェームス

(付属) 分析担当について



名前：	ヒルズ ジェームス
所属：	公益財団法人 大阪観光局 企画・マーケティング戦略部
職業：	データアナリスト
出身地：	グロスター（イギリス）－ チーズ転がし祭が有名
趣味・興味	サッカー（生涯のリバプールファン）・ 爬虫類（トカゲを繁殖中）
経歴：	2013年～2017年にカーディフ大学に在学期間中、1年間の交換留学生として北九州市立大学に留学した経験あり。2017年～2019年まで日本政府のJETプログラムに参加し、2019年から公益財団法人 大阪観光局に就職。現在、マーケティングデータアナリストとして主に市町村向けのデータを活用したコンサルティングサービスを提供している。

YouTubeチャンネル発信中!



「Samurai Chronicles」を検索し、
ぜひご登録ください！



アンケート質問

アンケート質問 ①

Q.1. 大阪での留学に関しては全体的にどのくらい満足していますか（1 = とても不満, 5 = とても満足） SA : 1 つ選択

- | | |
|----|---|
| A1 | 1 |
| A2 | 2 |
| A3 | 3 |
| A4 | 4 |
| A5 | 5 |

アンケート質問 ②

Q.2. 大阪に住んでよかったと思うことは何ですか（該当なものをすべて選んでください）

MA：複数選択

- A1 日本の文化を体験できた
- A2 大阪の観光地が充実している
- A3 大阪以外の観光地に簡単に行ける
- A4 ショッピング施設が充実している
- A5 カフェや公園など遊ぶ場所が多い
- A6 居酒屋やクラブなど夜遊ぶ場所が多い ・ ナイトライフが良い
- A7 美味しい食べ物・食べたことがないものが食べられた
- A8 OGSANなどの留学生の国際交流ができるコミュニティに参加できた
- A9 留学生のためのイベントが多い
- A10 サークルなどの部活に参加できた
- A11 外国人・留学生向けの生活支援が充実している
- A12 将来の夢に繋がる知識が学べた
- A13 就職先が決まった
- A14 就職支援が充実している
- A15 アルバイトができた
- A16 私が通っている学校・その先生が好き
- A17 日本語以外の言語で教育を受けられた
- A18 自立ができ、自信を持つようになってきた
- A19 地元の人が優しい
- A20 友達・恋人ができた
- A21 日本語のレベルが上がった
- A22 母国の人が多い
- A23 安全に暮らせる
- A24 物価が安い
- A25 気候・環境が良い
- A26 奨学金をもらえるようになった
- A27 健康保険ありがたい
- A28 大阪に住んで良かったと思うことはない

アンケート質問 ③

Q.3. 次のテーマで悩んでいる度合いを選んでください（とても悩んでいる = 5、とても悩んでいない = 1） SA：1つ選択

- Q3.1 生活費・家賃・学費などの経済的な悩み
- Q3.2 アルバイト探し
- Q3.3 就職・進学活動（進路）
- Q3.4 ビザ・銀行口座などの行政的な手続き
- Q3.5 日本語でのコミュニケーション
- Q3.6 母国と日本文化との違い ・ カルチャーショック
- Q3.7 友達作り ・ 国際交流機会の少なさ
- Q3.8 ホームシック/ 母国のものが入手しにくい
- Q3.9 遊ぶ場所がない
- Q3.10 健康・医療（身体的・精神的も含め）
- Q3.11 学校のこと
- Q3.12 住居のこと
- Q3.13 COVID-19関連の悩み事
- Q3.14 治安・差別 など

アンケート質問 ④

Q.4. 留学先を選ぶ際、特に重要だと思う項目を選んでください（該当なものをすべて選んでください）

MA：複数選択

- A1 卒業した後の就職先が豊かであること
- A2 発達した技術があること
- A3 有名な大学・学校があること
- A4 日々の生活が魅力的であること
- A5 留学生が多いこと
- A6 日本語以外の言語で勉強できること
- A7 景気・経済が良いこと
- A8 奨学金がもらえること
- A9 友達・知り合い・親戚がいること
- A10 ビザの手続きが簡単であること
- A11 母国に近いこと
- A12 親が賛成していること
- A13 宗教的な対応が充実していること
- A14 観光ができること
- A15 自然環境が良いこと
- A16 物価・生活費が安いこと
- A17 地元の人優しい
- A18 現場の文化・歴史が体験できること

アンケート質問 ⑤

Q.5. 現在通っている学校を卒業すると、次に何をするつもり/予定ですか

SA : 1つ選択

- A1 母国で就職する
- A2 日本で就職する
- A3 母国・日本以外の国で就職する
- A4 母国で進学する
- A5 日本で進学する
- A6 母国・日本以外の国で進学する
- A7 まだ決まっていないが、母国に戻るつもり
- A8 まだ決まっていないが、日本に残るつもり
- A9 まだ決まっていないが、母国・日本以外の国に行くつもり
- A10 その他

Q.6. 出身国・地域

FA : 各自記入

【自由回答】

Q.7. 出身国・地域

SA : 1つ選択

- A1 女性
- A2 男性
- A3 その他

アンケート質問 ⑥

Q.8. 年齢を教えてください

SA : 1つ選択

- A1 18歳未満
- A2 18歳
- A3 19歳
- A4 20歳
- A5 21歳
- A6 22歳
- A7 23歳
- A8 24歳
- A9 25歳
- A10 26歳
- A11 27歳
- A12 28歳
- A13 29歳
- A14 30歳
- A15 31歳
- A16 32歳
- A17 33歳
- A18 34歳
- A19 35歳
- A20 36歳
- A21 37歳
- A22 38歳
- A23 39歳
- A24 40歳以上

アンケート質問 ⑦

Q.9. 通っている学校の種類は何ですか

SA : 1つ選択

- A1 大学院
- A2 大学
- A3 専門学校
- A4 日本語学校
- A5 その他

Q.10. 日本で通っている学校の名前

FA : 各自記入

【自由回答】

Q.11. 日本で通っている学校の名前

SA : 1つ選択

- A1 2014年
- A2 2015年
- A3 2016年
- A4 2017年
- A5 2018年
- A6 2019年
- A7 2020年
- A8 2021年
- A9 2022年
- A10 2023年
- A11 その他

アンケート質問 ⑧

Q.12. 日本に留学し始めた月を教えてください

SA : 1つ選択

- A1 1月
- A2 2月
- A3 3月
- A4 4月
- A5 5月
- A6 6月
- A7 7月
- A8 8月
- A9 9月
- A10 10月
- A11 11月
- A12 12月

アンケート質問 ⑨

Q.13. 大阪にある学校に留学し始めた年を教えてください

SA : 1つ選択

- A1 2014年
- A2 2015年
- A3 2016年
- A4 2017年
- A5 2018年
- A6 2019年
- A7 2020年
- A8 2021年
- A9 2022年
- A10 2023年
- A11 その他
- A12 大阪の学校に留学していない

アンケート質問 ⑩

Q.14. 大阪にある学校に留学し始めた月を教えてください

SA : 1つ選択

- A1 1月
- A2 2月
- A3 3月
- A4 4月
- A5 5月
- A6 6月
- A7 7月
- A8 8月
- A9 9月
- A10 10月
- A11 11月
- A12 12月
- A13 大阪の学校に留学していない

アンケート質問 ⑪

Q.15. あなたの日本語能力はどのレベルですか

SA : 1つ選択

- A1 N1レベル
- A2 N2レベル
- A3 N3レベル
- A4 N4レベル
- A5 N5レベル
- A6 N5レベルより低いレベル ・ 全く分からない

Q.16. 名前を教えてください（任意）

FA : 各自記入

【自由回答】

Q.17. メールアドレスを教えてください（任意）

FA : 各自記入

【自由回答】

2023年02月28日



留学生の現状調査 結果報告 2023年

調査期間： 2022年12月15日 ～ 2023年1月15日



問い合わせ先：
公益財団法人 大阪観光局
企画・マーケティング戦略部
ヒルズ ジェームス
James.hills@octb.jp